

新約聖書《しんやくせいしよ》卷之一《けんのいち》

馬太傳《またいでん》福音書《ふくいんしよ》

(奥野昌綱による口語化改定案入り『馬太傳福音書』ヘボン・ブラウン 1873 年共訳)

●第一章●

- 0101 アブラハムのすゑ ダビデのすゑ 耶穌《イエス》キリストの系譜《けいづ》
- 0102 アブラハム イサクをうみ イサク ヤコブをうみ ヤコブ ユーダとその兄弟をうみ
- 0103 ユーダ タマルのはらに パレスとザラをうみ パレス エスロンをうみ エスロン アラムをうみ
- 0104 アラン アミナダブをうみ アミナダブ ナーソンをうみ ナーソン サルモンをうみ
- 0105 サルモン ラカブのはらにボーズをうみ ボーズ ルツのはらにヲベデをうみ ヲベデ イエツサイをうみ
- 0106 イエツサイ ダビデ王《わう》をうみ ダビデ王《わう》 ウリヤの妻《はら》のはらにソロモンをうみ
- 0107 ソロモン ロボアムをうみ ロボアム アビアをうみ アビア アサフをうみ
- 0108 アサフ ヨサパテをうみ ヨサパテ ヨラムをうみ ヨラム ヲジヤをうみ
- 0109 ヲジヤ ヨアタムをうみ ヨアタム アカズをうみ アカズ エセ [ゼ] キヤをうみ
- 0110 エゼキヤ マナセをうみ マナセ アモンをうみ アモン イヨシアをうみ
- 0111 バブロンにうつされたるとき イヨシア イエコニアとその兄弟をうみ
- 0112 バブロンにうつされたるのち イエコニア サラチエルをうみ サラチエル ゴロバベルをうみ
- 0113 ゴロバベル アビウデをうみ アビウデ エリアキンをうみ エリアキン アゾルをうみ
- 0114 アゾル サドクをうみ サドク アキンをうみ アキン エリウデをうみ
- 0115 エリウデ エリアザルをうみ エリアザル マツタンをうみ マツタン ヤコブをうみ
- 0116 ヤコブ マリアの夫《をつと》ヨセフをうみ このマリアよりキリストととなふる耶穌《イエス》うまれたまへり
- 0117 かくアブラハムよりダビデまでの歴代《れきだい》すべて十四代 またダビデよりバブロンにうつるまで十四代 またバブロンにうつりてよりキリストまで十四代なり
- 0118 それ耶穌キリストのうまれたまふことさのごとし その母《はゝ》マリアはヨセフと契約《けいやく》していまだともにをらざるに 聖靈《せいれい》に感《かん》じてはらみしことあらはれしが
- 0119 その夫《をつと》ヨセフはたゞしき人なれば これをはづかしむることをほつせず ひそかに離縁《りゑん》せんとおもへり

0120 かくてこのことをかんがへ居《み》けるに みよ 主《しゆ》のつかひかれのゆめにあらはれていひけるは ダビデのすゑヨセフよ なんぢの妻《つま》マリアをめとるをおそるゝな いかになればかれにはらみしものは聖靈《せいれい》によるなり

0121 かれ子《こ》をうまん その名《な》を耶穌となつ [づ] くべし かれその民《たみ》をそのつみよりすくはんとすればなり

0122 すべてこのことは預言者《よげんしや》によりて主《しゆ》のいひたまひしことばに

0123 みよ むすめはらみて子《こ》をうまん その名《な》をエンマヌエルととなふべしといひしにかなへんためなり その名《な》をとけば 神《かみ》われらとともにあるとの【こころくいみ】なり

0124 ヨセフ目《め》さめておき 主《しゆ》のつかひの命《めい》ぜしごとくにしてその妻《つま》をめとりしが

0125 初子《ういご》のうまるゝまで交合《まじはり》もせざりき しかしてその名《な》を耶穌となへ【ましたくり】

●第二章●

0201 さて耶穌はヘロデ王のとき ユダヤのベツレヘムにうまれたまひしが みよ 博士《【がくし<はかせ】》たちひがしのかたよりエロソルマにきたりて

0202 いひけるは ユダヤ人の王とてうまれたまひしものは【どこくいづこ】に【おいでなさるか<ゐますや】こはわれらひがしのかたにてその星《ほし》を【みましたから<みれば】【そのおこさまに<かれを】【おめどほりをつかまつりたく<拜《はい》せん】とて【まゐりました<きたれりと】

0203 ヘロデ王これをきゝて【こころを】いため【ましたくり】またエロソルマの【ひとびと<民《たみ》】も【そのとほりでありました<みなしかり】

0204 すべての祭司《さいし》のをさとたみのがくしやらをあつめてそれにとひけるは キリストの【うまれる<うまるべき】ところは【どこくいづこ】なるや

0205 かれにいひけるは ユダヤのベツレヘムなり そは【{むかしのせいじん/かみとしたしくせしひとびと} <よげんしや】の【かきのこ<しる】されしことばに

0206 ユダヤの地ベツレヘムよ なんぢはユダヤの郡中《ぐんちう》にていたつてちいさきものにあらず いかになればわがイスラエルの民《たみ》をやしなふべき君《きみ》そのうちより【て [で] ます<いでん】と【いふてあります<いへり】

0207 こゝにおいてヘロデひそかにはかせたちをよび 星《ほし》のあらはれしときをくはしくとひて

0208 かれらをベツレヘムへつかはさんとていひけるは ゆきて嬰兒《をさなご》のことをくはしくたづねて これにあはゞわれもまたゆきてこれを拜《はい》せんためにわれにつけ [げ] よ

0209 彼ら王の命《おほせ》をきゝてゆける みよ ひか [が] しのかたにて見《み》し星《ほし》
かれらにさきだち をさな子《ご》のをるところまでゆきてその【いへの】うへにとゞま【るく
りぬ】

0210 かれらこの星《ほし》をみてよろこびに【かぎりなしくたえず】

0211 すでに家《いへ》にいり をさなごのその母《はゝ》マリアとともにをるをみて【へいふ
くしてくひれふし】 をさなごを拜《はい》し そのたから【もの】のはこをひらき 禮物《れい
もつ》黄金《わうごん》乳香《にうかう》没薬《もつやく》を【しんじやうしましたくさゝげ
たり】

0212 はかせゆめにへロデへ【かへりてくかへる】【はなすこと】なかれとのつげをかうむりて
ほかのみちよりその【ひとの】國《くに》にかへ【りましたくれり】

0213 かれら【たち】さりてのち【みなされくみよ】主《しゆ》のつかひヨセフのゆめにあら
はれていひけるは へロデをさなごをさがしころさんとするゆゑ おきてをさなごとその母
《はゝ》とをたづさへ アイグプトへにげ【ゆきてくさり】 【われくわが】なんちに【しらせ
るくしめさん】までかしこにとゞまれよ

0214 ヨセフおきて夜《よる》をさなごとその母《はゝ》とをたづさへ アイグプトにゆき

0215 へロデの死するまでそこにとゞま【りましたくれり】これはよげんしやによつて主《し
ゆ》の われわが子《こ》をアイグプトよりよびいだ【すくせり】とのたまひしにかなへ【るく
ん】ためなり

0216 こゝにへロワ [デ] はかせにあさ [ざ] むかれたるをしり【て】おほひにいかり 人をつ
かはし はかせにくはしくたづね【しくたる】【ことは [ば] くとき】にしたがつてベツレヘム
とそのさかひのうちなるをさなごを二歳《にさい》より【したく以下《いか》】のものをこと
どくころ【しましたくせり】

0217 これよげんしやエレミヤのいはれたる

0218 なげきかなしみいたくうれふるこゑきこゆ ラケルその子《こ》どものをなげき またその
子《こ》どものなきによりて【こころを】なぐさ【めることなしくまず】といひし【ことば】
にかなへり

0219 へロデ死《し》したれば みよ 主《しゆ》のつかひアイグプトにてゆめにヨセフにあらは
れていひけるは

0220 おきて嬰兒《をさなこ [ご]》とその母《はゝ》を【つれくたづさへ】て イスラヘル
の地《ち》にゆけ をさなごのいのちを【とるくもとむる】ものははや【しにましたく死《し》せ
り】

0221 すなはちおきておさなごとその母《はゝ》とをたづさへ イスラヘルの【土】地《ち》に
【まゐりてくいたる】【ききましたる】に

0222 アルケララ【といふひと】その父のへロデ【のあとをついでくにかはりて】ユダヤの王《わ

う》【となりしをくたりと】きゝ そこへゆくをおそれ【ましたくり】 またゆめにつげをかう
むりてガリラヤのうちに【てくさけ】

0223 ナザレと【いふくいへる】むらに【きたりくいたり】てこゝにをる ナザレ人《びと》と
なづけられんとよげんしやによつていはれしことになふためなり

●第三章●

0301 そのころ洗禮《せんれい》をさづくるヨハンネきたり ユダヤの野《の》にふれしめして

0302 いひけるは 天國《てんこく》はちかきにあれば 悔《【くやみくくひ】》あらためよ

0303 これは主《しゆ》のみちをそなへ そのみちをなほくせよと 野《の》によべる人のこゑあ
りとよげんしやエザヤがいはれしはこの人なり

0304 このヨハンネは身《み》にらくだの毛《け》ごろもを着《き》腰《こし》に皮《かは》
のおびをむすび その食物《しよくもつ》は蝗《いなご》と野蜜《のみつ》なり

0305 そのときにおいてエロソルマまたユダヤこぞつてまたヨルダンの四方《しほう》より人/
〔ノ〕\いでゝヨハンネに【つきてくいたり】

0306 そのつみを懺悔《さんげ》し かれによつてせんれいをヨルダン【のかは】にてうけたり

0307 そのせんれいにパリサイおよびサドカヒの人〔ノ〕\おほくきたるをみて それにいひ
けるは 虻《まむし》のたぐひ おこらんとする怒《【はらたちくいきり】》を【とほざくるく
さくる】をたれか〔が〕【おまへがたくなんぢら】に【はなしませんかくしめしたるぞや】

0308 されば悔《くひ》あらたむるにかなふ【やうにくべき】【きの】實《み》【のよくなりて
あからみて よきあち〔ぢ〕{をもて／はひをもてよ}くをむすべよ】

0309 われらの先祖《せんぞ》にアブラハムありといはるゝことをこゝろにおもふ【ことないが
よいくなかれ】 いかにとなればわれなんぢらに【はなしましようにかたらん】 神《かみ》は
よくこの石《いし》をもつてアブラハムの子と【いたしますくなせばなり】

0310 今斧《をの》は樹《き》の根《ね》に【おいてあるくおかる】 すべてよき實《み》【の
ならぬくをむすばぬ】 樹《き》はきられて火《ひ》になげいれらる

0311 われはなんぢらのくひあらたむるについて水《みづ》をもつて汝《なんぢ》らにせんれい
をさづく われよりのちにきたらんものはわれにまさ【りますくれり】 われはその履《【ごう
りくくつ】》をとるにもたらず その人は聖靈《せいれい》と火をもつてなんぢらにせんれいを
さづけ【ますくん】

0312 その箕《み》をその手《て》にもつてその庭《【にはくば】》をきよめ その麥《むぎ》
をあつめて庫《くら》にいれ そのからをきえざる火にてやくべし

0313 このとき耶穌ヨハンネによりて洗禮《せんれい》をうけんためにガリラヤよりヨルダンに
【おいて〔で〕くきたり】【なされましたくたまへり】

0314 ヨハンネ【急むりにして?くいなみて】いひけるは われは【あなたく主《しゆ》】より

- せんれいをうくべきものなるに かへつてわれにつき【てせんれいをうけ】たまはんや
 0315 耶穌こたへていひけるは いまゆる【しなされくせよ】 かくのこ [ご] とくわれらすべて
 のたゞしきことは【ことこ [ご] とくいたしたいくつくさざるべからず】 【とおほせられました】
 こゝにおいてヨハンネかれにゆる【しましたくせり】
 0316 耶穌せんれいをうけ たゞちに水よりあがり【ましたれは [ば] くしに】 【みなされくみ
 よ】 天《てん》かれにひらけ 神《かみ》の靈《みたま》 鳩《はと》のごとくにして そのうへ
 にきたるをみたり
 0317 またみよ 天《てん》よりこゑありて これはわがこゝろにかなひたるわが愛子《あいし》
 なりといふ

●第四章●

- 0401 さて耶穌あくまにこゝろみられんために聖靈《みたま》に野《の》にみちびかれたり
 0402 四十日《にち》夜《よ》もひるも食《【くはくらは】》ず のち飢《うゑ》たり
 0403 こゝろみるものかれにきたりていひけるは なんぢもし神《かみ》の子《こ》ならば この
 石《いし》をばんになれと【おほせられく命《めい》ぜ】よ しかるに
 0404 こたへていひけるは 人はばんのみにていき【てをら】ず たゞ神《かみ》のくちよりいづ
 るすべてのことばによるしるされたり
 0405 あくまかれをみやこにつれゆき 殿《みや》のいたゞきにたゞせていひけるは
 0406 なんぢもし神《かみ》の子《こ》ならば身《み》をなげおとせ いかにとなれば 【あなた
 のくなんぢが】ために【かみのくその】 【おつかひくつかひたち】に【いひつけく命《めい》
 じ】たまふて 足《あし》の石《いし》に【さわらくふれ】ぬやうにその手《て》にてなんぢを
 たすけ【るくん】と【かき】しるされたり
 0407 耶穌かれにいひけるは 主《しゆ》たるなんぢの神《かみ》をこゝろむべからずとまた【か
 き】しるされたりと
 0408 あくまかれを【はなはた [だ] くいと】たかき山につれゆき 世界《せかい》の國《くに》
 / [ど] \ とその榮《さかえ》【るこ】とをみせて
 0409 なんぢもし【へいふくくひれふ】してわれを【おか [が] むならく拜《はい》さ】ば こ
 れをみな【おまへくなんぢ】に【あげましようくあたへん】といへ【ましたくり】
 0410 こゝにおいて耶穌かれにいひけるは サタナ のけよ 主《しゆ》たるなんぢの神《かみ》
 を拜《はい》し たゞそれにつかふべしとしるさ【れてあるくるれば】なりと
 0411 やがてあくまかれを【はなれましたくはなる】 みよ 【かみの】つかひたちきたりて【ゑ
 すくかれ】 【のため】に【つとめましたくつかへり】
 0412 さて耶穌ヨハンネがとらはれたるをきゝて ガリラヤへゆき
 0413 ナザレをはなれ ザブロンとネフタレムとのさかひなるうみべのカペナオムにいたりて

こゝにをる

0414 よげんしやエザヤのことばに

0415 ザブロン之地《ち》とネフタレム之地《ち》とはうみべにて ヨルダンのむかふ異邦人《【いこくじんくいほうじん】》のガリラヤ【は】

0416 くらきに【をりますくをる】【ひとく民《たみ》】はおほひなるひかりを見《み》死蔭《しにかげ》のところにをるものまで【も】ひかりはてらすといはれしに【かなひますわへくかなふためなり】

0417 これより耶穌ふれ【しらせくしめし】たまふて 天國《てんこく》はちかきにあれば【つみを】【くやみくくひ】あらためよといひはじめ【ましたくたまへり】

0418 耶穌ガリラヤのうみべをあゆみ ペテロといふシモンとその兄弟アンデレふたり海《うみ》にあみをうつをみたり これはすなはち漁師【《れうし》く《すなどる》もの】なり

0419 かれにいひけるは われにしたがへ われなんぢらを人をすなどるものと【いたしましよくなさん】

0420 かれらやがてあみをすてゝかれにしたがへ【ましたくり】

0421 そのところより【また】【ゆきくすゝみ】けるに ほかの兄弟ふたりゼバダイの子ヤコブとその兄弟ヨハンネ父ゼバダイとともに舟《ふね》にあみをつくろふ【てをる】をみて かれらをよび【ければくしに】

0422 かれらもやがて舟《ふね》と父と【にわかれてくをおきて】 耶穌にしたがへ【ましたくり】

0423 耶穌ガリラヤを【ことごとくくあまねく】めぐり その會堂《くわいどう》にてをしへ 天國《てんこく》の福音《ふくいん》をふれしめし また【ひとひ [び] とく民《たみ》】のうちすべてのやまひ すべてのわづらひを【なほしましたくいやせり】

0424 その評判《へうばん》あまねくスリヤにひろまり【ましたればくたりしかば】ひとくゝすべてわづらふものときまかゝのやまひまたいたみなやむもの あるひは鬼《おに》にとりつかれたるもの 狂氣《きちがひ》癲癩《ちうぶ》のやまひにかゝれるものをかれにつれきたるにかれらを【ことごとく】【なほしましたくいやせり】

0425 ガリラヤとデカポリ ユダヤ ヨルダンのむかふよりおほくの人くゝかれらにしたがへ【ましたくり】

●第五章●

0501 耶穌おほくの人をみて山にのぼり【すはりく坐《ぎ》し】たまひ【ければくしに】その【お】でしたちかれにきたり【しかばくぬ】

0502 すなはちくちをひらき【て】かれらにをしへ【をのべぬくけるは】

0503 こゝろのうち【ていねいにてたかぶらぬくへりくだる】ものはさいはひなるものなり い

- かにとなればその人の國《くに》は天國《てんこく》【であるくなれば】なり
- 0504 かなしむものはさいはひなるものなり いかにとなればその人はなぐさめを【うけるくうくべき】ものなれば [ば] なり
- 0505 柔和《にうわ》なるものはさいはひなるものなり いかにとなればその人は地球《ちきう》【においてしそんのつぐくをあひつぐべき】ものなればなり
- 0506 【はらのへるく飢《うゑ》】【のどのかわくく渴《かはく》】こ [ご] とくたゞしきをしたふものはさいはひなるものなり いかにとなればその人【じうふ [ぶ] んになるく盈《みて》らる】べきものなればなり
- 0507 あはれむものはさいはひなるものなり いかにとなればその人はあはれみをうくべきものなればなり
- 0508 こゝろのうちいさぎよきものはさいはひなるものなり いかにとなればその人神《かみ》にまみゆべきものなればなり
- 0509 【なかなほりく和睦《わぼく》】をすゝむるものはさいはひなるものなり いかにとなればその人は神《かみ》の子《こ》ととなへらるべきものなればなり
- 0510 たゞしきことのためにせめらるゝものはさいはひなり いかにとなればその人の國《くに》は天國《てんこく》なればなり
- 0511 わがためになんぢらをのゝしりせめ またいつはりてさまノ\のあしきことをいはるゝときになんぢらさいはひなるものなり
- 0512 よろこびよろこべ いかにとなれば天《てん》になんぢらのむくひおほければなり なんぢらよりさきのよげんしやのせめられ【ましたのくだ [た] りし】も【そのかくの】ごとくなればなり
- 0513 なんぢらは地《ち》のしほなり もししほそのあぢはひをうしなはゞ いかでかそのしほに【かへることはて [で] きませんくかへらん】その後《のち》はたゞそとにすてられ 人にふまるゝのほかなにもやくにたゞず
- 0514 なんぢらは世《よ》のひかりなり 山のうへにたてたる城《しろ》もかくるゝをえず
- 0515 あかりをともしてこれを斗《ますの》下《した》におくものなし 燭臺《しょくだい》におきて家《いへ》にあるすべてのものをてらすなり
- 0516 かくのごとくひとノ\のまへになんぢらのひかりをかノ\やかせ さすればひとノ\なんぢらのよきおこなひをみて 天《てん》にましますなんぢらの父をあがむべし
- 0517 われおきてとよげんをすつるために【きましたくきたれり】とおもふことなかれ すつるにあらず かへつてかなへ【るくん】ために【きましたくきたれり】
- 0518 まことになんぢらにつげん 天地《てんち》のつきざるうちに おきてその一點《てん》一畫《いつかく》も遂《とげ》つくさずしてすつべからず
- 0519 ゆゑにこのいましめのいたつてちひさきひとつをやぶりてかく人にをしゆるものは 天國

- 《てんこく》においていたつてちひさきものといはれ【ますくん】 およそおこなふて人にをしゆるものは 天國《てんこく》においてこれをおほひなるものといは【れますくるべし】
- 0520 われなんち [ぢ] らにつげん なんぢらのたゞしき [き] ことがくしやとパリサイの人のたゞしきよりもすぐれずんば かならず天國《てんこく》にいるゝことかなふまじ
- 0521 いにしへの人【がまうしましたくに】 ころす【こと】 なかれ またころすものは審判《【さいばんくさばき】》にあづか【るであらふくらん】 といひしこと なんぢらのきゝしところなり
- 0522 さりながらわれなんぢらにつげん すへ [べ] てゆゑなくその兄弟をいかるものはさばきにあづかるべし またその兄弟をラカといふものは評定《へんぜう》にあづかるべし また【のしるくたはけものよといふ】 ものは地獄《ぢこ [ご] く》の火にあづかるへ [べ] し
- 0523 ゆゑになんぢもしそなへものを壇《だん》にたづさへ そこにて兄弟のなんぢについてことありしをおもひいださば
- 0524 かしこに壇《だん》のまへにそなへものを置《おき》 ゆきて まづなんぢの兄弟とあひやはらぎ すなはちきたりてなんぢのそなへものをあげよ
- 0525 なんぢをうつたふるものとつれだちてゆくとき はやくやはらげよ おそらくはうつたふるものなんぢをしらべやくにわたし しらべやくなんぢをしたの役人《やくにん》にわたして なんぢはひとやにいれられん
- 0526 まことになんぢにつげん 分厘《ぶんりん》までもつくのはずんば かならずそこをいづることならず [ず]
- 0527 いにしへの人【のことば】 に淫《いん》するなかれといひしことなんぢらのきゝしところなり
- 0528 かしながらわれなんぢらにつげん およそ色情《しきし [じ] やう》をもよほしてをんなをながむるものは こゝろのうちはや淫《いん》せしなり
- 0529 右の眼《め》なんぢをつみにおとさば ぬきいだしてこれをすてよ いかにとなれば 五體《ごたい》のひとつをうしなふ【ともくは】 全身《ぜんしん》地獄《ぢごく》になげいれられ【るくん】 【よりはよろしくにはまされり】
- 0530 もし右の手《て》汝《なんぢ》をつみにおとさば これをきつてすてよ いかにとなれば五體《ごたい》のひとつをうしなふ【ともくは】 全身《ぜんしん》地獄《ぢごく》になげいれられんにはまさ【りますくれり】
- 0531 また人その妻《つま》をいださば それに離縁《りゑん》じようを【つかはすくあたふ】べしといへり
- 0532 されどわれなんぢらにつげん 淫事《いんじ》のゆゑならずして そのつまをいだすものはこれに淫事《いんじ》あらしむるなり またいだされたるをんなをめとるものも淫事《いんじ》をなすなり
- 0533 またいつはりのちかひをなすことなかれ 主《しゆ》になんぢのちかふところをとぐべし

- といにしへの人のいひしをなんぢら聞《きゝ》しところなり
- 0534 されどわれなんぢらにつげん さらにちかふことなかれ 天《てん》をさしてちかふなかれ
これ神《かみ》のみくらゐなればなり
- 0535 地《ち》をさしてちかふなかれ これ神《かみ》の足《あし》だいなればなり エロソルマ
をさしてちかふなかれ これ大王《だいわう》のみやこなればなり
- 0536 なんぢのかしらをさしてちかふなかれ これひとすぢの毛《け》だにもくろくしまたしろ
くするあはざればなり
- 0537 なんぢらのことばを しかり / \ いな / \ とこれよりすぐるはあしきよりいづるなり
- 0538 目《め》にて目をつくのひ 齒《は》にて齒をつくのへといひしをなんぢらきゝしところ
なり
- 0539 されどわれなんぢらにつげん あしきに敵《てき》たいするなかれ 人なんぢの右の頬
《ほゝ》をうたば 左の頬《ほゝ》もかれにさしむけよ
- 0540 なんぢを訟《うつた》へて した衣《ぎ》をとらんとするものには うは衣《ぎ》もまたか
れにとらせよ
- 0541 人なんぢに一里《いちり》の公役《こうやく》を強《しひ》なば かれとともに二里《に
り》ゆけよ
- 0542 なんぢに【のぞむくもとむる】ものに【は】【くれてやれくあたへ】よ 【かりたいとい
ふく借《から》んとする】ものには【ことほりをいふくいなむ】なかれ
- 0543 隣《となり》【のひと】を【かわゆがりくいつくしみ】て【かたきくあだ人】をうらむべ
しといひしを【おまへかたくなんぢら】【は】きゝしところなり
- 0544 されどわれなんぢらにつげん なんぢらのあだ人を【あいしくいつくしみ】 汝《なんぢ》
ら【にたかりをなすくをのろふ】ものゝためにさいはひをねが【つてやれくへ】 なんぢらをう
らむるものによきことをなし【てやれ】 なんぢらに【はむかふくさからふ】ものとせむるものゝ
ために【なるやうに】いの【りてやれよくれ】
- 0545 さすれば天《てん》にましますなんぢらの父《ちゝ》の子《こ》なるべし いかにとなれ
ばその目をよきものにもあしきものにもてらし 雨《あめ》をたゞしきものとたゞしからざるも
のとならしたまふ
- 0546 なんぢらもし【{うやまふ/したしむ} くいつくしむ】ものをいつくしまば なんのむく
ひあらんや 【うんじやうとるやくにんくみつぎとり】も【そのとほりにくかく】【するではな
いかくなさざらんや】
- 0547 もし安否《あんひ》を兄弟のみにとはゞ なんのまされることあらんや みつぎとりもかく
なさざらんや
- 0548 さらば天《てん》にましますなんぢらの父の【かみの】よきをつくす【とほりにくごとく】
なんぢらもよき【こと】を【できるだけいたすくつくす】べし

●第六章●

0601 なんぢらの【しやうじきくたゞしき】をひと／＼にみせ【るくん】ために人のまへに【てもものこ【ご】と】【するくなす】ことをつゝし【むか【が】よいくめよ】もし【そのとほりにいたしませんならばくしからずんば】天《てん》にまします汝《なんぢ》らの父の【かみさま】よりの【おめく【ぐ】みくむくひ】【が ないぞくを えじ】

0602 【その】ゆゑにほどこしを【するくなす】ときに人よりあがめ【られくをえ】んとて【みだうのまへく會堂《くわいどう》】やまち【のなか】にて【ぜんにんににせたふうをするひとく偽善《ぎぜん》しや】の風聴《ふいてう》するごとく【にいたすくなす】ことなかれ われまことになんぢらに【しらせますくつげん】かれらはその【ためにものをもらひますくむくひをうる】

0603 なんぢらほどこしを【するくなす】に 右《みぎ》の手《て》の【するくなす】ことを左《ひだり》の手《て》に【しらせるくしらする】【こと】なかれ

0604 【そうするとくさすれば】なんぢらの ほど【ど】こし【が {あらはれません／むた【だ】になります} くは かくるべし】 かくれ【てほど【ど】こすものくたる】を【ごらんなさるくみたまふ】なんぢの父【の神】は あらはに なんぢに【よきことをさつ【づ】けてくむくひ】
【くださるくたまはん】

0605 【おか【が】みをするくいのる】ときに【ぜんにんのふうをするひとく偽善《ぎぜん》しや】のごとく【にしなさるなくなるなかれ】 【と【ど】ういふわけかかいかに】と【いへばくなれば】かれらは人に【みせるくみられん】ために【みだうく會堂《くわいどう》】やまちの隅《かど》にたちて【おか【が】むくいのる】【こと】を【すきますくこのむ】 われまことになんぢらに【をしへますくつげん】かれらは【それについてくその】【よいものくむくひ】を【もらひますくうる】

0606 なんぢ いの【りをす】るとき【はくに】室《へや》に【は】いり とぢこもりて かくれ【てござるくたるにいます】なんぢの父【のかみ】にいのれ かくれたる【ものをくに】【ごらんなさるくみたまふ】なんぢの父【のかみ】はあらはになんぢに【よいことをさつ【づ】けてくむくひ】【くださるぞくたまはん】

0607 【おか【が】むくいのる】に【このをしへをしらぬ人く異邦人《いほうじん》】のごとくくりかへしごとをいふことなかれ いかにとなればかれらはことば【をおほくすればくおほければ】【よくきこゆるくきかれん】とおもへ【ますからですかくばなり】

0608 【その】ゆゑに【にせのぜんにんくかれら】にならふことなかれ いかにとなれば【ば】【おまへさんく汝《なんぢ》】らの父【のかみ】はねがはざるさきに【おまへがたくなんぢら】のなくてかなはざるものを【しつてくしり】【おいて【で】なさるよくたまへり】

0609 【その】ゆゑに左《さ》のごとく【おまへさんがたくなんぢら】【おか【が】むくいのる】

- べし 天《てん》にましますわれらの父《ちゝ》よ ねがはくは聖名《みな》をあがめさせたまへ
- 0610 神國《みくに》をちかづかせたまへ 聖意《みこゝろ》を天《てん》になすごとく 地《ち》にもなさしめたまへ
- 0611 われらの【なくてはかなはざること<日《ひ》ゞ】の糧《かて》を今日《こんにち》もさづけたまへ
- 0612 われらがひとの【ふちうはふ<つみ】をゆる【しま】す【とほり<ごとく】 われらのつみをもゆるしたまへ
- 0613 われらをこゝろみらるゝことにみちびきたまはず かへつて【あしきなか<悪《あく》】よりすくひだしたまへ 國《くに》と權《ちから》と威光《いくわう》とはあなたのかぎりなくたもちたまふものなればなり 亞孟《あゝめん》
- 0614 いかにとなればもしなんぢらひとのつみをゆるさば 天《てん》にましますなんぢらの父【のかみ】もなんぢらをゆるしたまはん
- 0615 しかれどももし人のつみをゆるさ【ぬらば<ずば】 なんぢらの父もなんぢらのつみをゆるし【たまひません<たまはじ】
- 0616 なんぢら禁食《だんじき》するとき【にせぜんにん<偽善《ぎぜん》しや】のこ【ご】とく【うれい<憂《うき》】【かほつき<さま】をするなかれ いかにとなればかれらは禁食《だんじき》を人にみせ【る<ん】ためにかほいろを【あしくする<そこなふなり】 われまことになんぢらにつげん かれらはその【ために】【ものをもらふ<むくひをうる】
- 0617 さりながらなんぢ禁食《だんじき》するときにかしらにあぶらをつけ かほをあらふべし
- 0618 さすれば人になんぢの禁食《だんじき》はあらはれずして かくれ【て<たるに】【おいでなさる<まします】なんぢの父【のかみ】にあらはれ【ます<ん】 またかくれ【て<たるに】み【ておいて【で】なさる<たまふ】なんぢの父【のかみさまは】あらは【して<に】なんぢに【よきことを<むくひ】たまふべし
- 0619 地《ち》にたからを【たくはひる<たくはふる】ことなかれ すなはち蠹《【むし<しみ】】<ひ錆《さび》<さり ぬす人【のめをつけ<うがち】てぬすむところなり
- 0620 天《てん》にこそたからを【たくはひなされ<たくはふべけれ】 すなはち蠹《しみ》<ひ錆《さび》<さり ぬす人【めをつけ<うがち】て ぬす【むことなき<まざる】ところなり
- 0621 いかにとなれば なんぢらのたからのあるところにこそ こゝろもまた【そのところに】ある【べし<べけれ】
- 0622 身《み》のひかりは目《め》なり ゆゑになんぢの目《め》もしあきらかならば なんぢの全身《ぜんしん》あきらかなるべし
- 0623 なんぢの眼《め》もしあしからば 全身《ぜんしん》くらかるべし ゆゑになんぢのうちにあるひかりもしくらからば いか【ほどのこと<ばかり】ぞや

0624 人はふたりの主《しゆ》につかふることあたはず いかになればこれをにくみかれを【かわゆがることくいつくしみ】これを【うやまひ また たふとみくしたしみ】かれを【かるしめ また ないがしろにすくうとむ】べければなり なんぢら神とたから【もの】【と ふたつのもの にくに かね】【つかへるくつかふる】こと【できませんくあたはず】

0625 このゆゑにわれなんぢらにつげん いのちのためになにを食《くら》ひなにをのみ または身《み》のためになにを衣《き》【るくん】とおもひ【くるしめるくわづらふ】【こと】なかれ いのちは【くひものきものどうぐく糧《かて》】より【も たつとくくまさり】【からだはく身《み》も】衣《ころも》より【たつとくくまされる】ものに【て】【ありましようくあらさ [ざ] るか】

0626 そらの鳥《とり》をおもひ【みなされくみよ】【とかういふわけくいかに】と【いへくなれ】ば【たねも】蒔《ま》かず【かりいれもせずくからず】倉《くら》に【もしまふておかずくたくはへず】されどもなんぢらの天《てん》の父はこれ【ら】をやしな【ふて くだ [だ] されますくひ たまふ】なんぢらはそれより【はなはだくいと】【すぐれたるくすぐるゝ】ものに【てありますくあらずや】

0627 なんぢらのうちたれかおもひ【くるしむともくわづらふて】そのいのち【を】【いつしやくかいつすんほどく尺寸《せきすん》】もよく【のべるくのぶる】ご [こ] と【ができますかくをえんや】

0628 またなにゆゑに衣《【きものくころも】》のこともおもひ【くるしむくわづらふ】や 野《の》の百合《ゆり》のいかにそだつかよく【みなされくみよ】それはつとめ【もせ】ず【いとも】紡《つむ》がす [ず]

0629 されどわれなんぢらにつげん ソロモン【できへくだに】もそのすべての【りつばなるにもく榮《さかえ》に】この花《はな》のひとつほども【けしやうはいたしませんく粧《よそ》はざりき】

0630 神はけふ野《の》にありて明日《あす》爐《【かまと [ど] ころ》】になげいれらるゝ草《くさ》だにもかく【よそほひさせくよそはせ】たまへば まして【おまへさん□□□□□おきなさらうやくなんぢらをや】あゝ汝《なんぢ》ら信仰《しんかう》うすきものよ

0631 ゆゑになにを食《くら》ひ なにを飲《のみ》 なにを衣《き》んとておも【ゆくひわづらふことなかれ】

0632 これみな【かみのをしへをしらざる人く異邦人《いほうじん》】の【もとめるくもとむる】ものなればなり なんぢら天《てん》の父《ちゝ》はみなそのもの【のくを】なくてかなはざるもの【はよくしりてくとしり】【おいて [で] なさるくたまへば】なり

0633 なんぢらまづ神《かみ》の國《くに》【へゆくみち】とそのたゞしき【こ】とをもとめ【なされくよ】【そうくさ】すればみなそのものを【も】なんぢらに【また くだ [だ] さるくはへらる】べし

0634 ゆゑに明日《あす》のことをおもひわづらふ【こと】なかれ いかにとなれば明日《あす》はあすのことをおもひわづらふべし 一日《いちにち》のあしきは一日《いちにち》【だけにすべしくにたれり】

●第七章●

- 0701 なんぢらとがめられぬやうに人をとがむることなかれ いかにとなれば汝《なんぢ》らが人をとがむるところのとがめをもつてとがめらるべし
- 0702 いかにとなればまた汝《なんぢ》らが人をはかるところのはかり【ごと】をもつてはからるべし
- 0703 おのれの目《め》に【ある】梁木《うつばり》をおぼえずして なんぞ兄弟の目《め》にある塵《ちり》をみるや
- 0704 おのれの目《め》にうつばりのあるに いかで兄弟になんぢの目《め》にあるちりをわれにとらせよといふことをえんや
- 0705 【偽善《にせぜん》にんく偽善《ぎぜん》しや】よ まづおのれのめよりうつばりをいだして そののち兄弟のめよりちりをいださんとてあきらかに見《みる》べし
- 0706 犬《いぬ》に聖《【きよらかくせい】》なるものをあたふることなかれ また豕《ぶた》のまへになんぢらの真珠《しんじゆ》をなぐるることなかれ おそらくは足《あし》にてそれをふみ ぶりかへりてなんぢらをかみやぶらん
- 0707 もとめよ さらばなんぢらに【くだされましようくあたへられん】 たづねよ さらばなんぢらあはん 門《もん》をたゞ[>]けよ さらばなんぢらに【ひらくくひらかる】べし
- 0708 いかにとなれば すべてもとむるものは【さづけられくうけ】 たづぬるものはあひ 門《もん》をたゞ[>]くものには【ひらくくひらかる】べし
- 0709 なんぢらのうちたれかもしその子《こ》餅《ぱん》をもとむるに 石《いし》をあたへ【ますくん】や
- 0710 また魚《うを》をもとむるに 蛇《へび》をあたへ【ますくん】や
- 0711 さればなんぢらあしきもの【よりもくながら】よきものをなんぢらの子《こ》どもにあたふる【こと】をしる まして天《てん》にましますなんぢらの父【のかみ】はもとむるものによきものをあたへざらんや
- 0712 ゆゑにすべて人のなんぢらになすやうにとおもふことは なんぢらもかく人になすべきことなり これ【かみのこころくおきて】と【むかしのせい人く預言者《よげんしや》】【のおことば】なればなり
- 0713 せばき門《もん》より【は】いれよ いかにとなれば【ほろびにゆくくほろぶるにいたる】みちはひろく その門は【おほきくあるくおほひ】なり これより【は】いるものおほし
- 0714 いけるにいたるみちは【{なやみあり／むつかしく}くなやましく】 その門はせばくそ

のみちを【こころにとめて】【しるくうる】ものすくなし

0715 いつはりの預言者《よげんしや》をつゝしめよ それは【ひつし [じ] のこ [ご] とくく
綿羊《めんよう》の【すがたにてなんぢらにきたれども 【こころの】内心《うち》はあらき狼
《おほかみ》なり

0716 その果《み》によりてそれをしるべし 荊《いばら》より葡萄《ぶどう》をとり あざみよ
り【も】無花果《いちじく》をとらんや

0717 かく【のごとく】すべてよき樹《き》【へ】はよき果《み》をむすび またあしき樹《き》
はあしきみをむすぶ

0718 よき樹《き》はあしきみをむすばす [ず] またあしき樹《き》はよきみをむすぶことあ
たはず

0719 すべてよきみをむすばざる樹《き》はきられて火《ひ》になげいれらる

0720 ゆゑにそのみによりてそれをしるべし

0721 われを主《しゆ》や / \ といふものはすべて天國《てんこく》にいらす たゞわが天《て
ん》にまします父の旨《むね》にしたがふものは【は】いるべし

0722 その日 主《しゆ》や / \ 主《しゆ》の名《な》によりてをしへ 主《しゆ》の名《な》
によりて鬼《おに》をはらひ 主《しゆ》の名《な》によりておほくふしぎなるわざをなせしに
あらずやとわれにいふものおほからん

0723 そのときわれ かつてなんぢらをしらず あしきをなすものよ われをはなれてゆけとかれ
らにいふべし

0724 ゆゑにすべてわがことばをきゝてそれをおこなふものを磐《いは》のうへに家《いへ》を
たてたるかしこき人にたとへ【るくん】

0725 あめふり洪水《おほみづ》いで風《かぜ》ふき その家《いへ》にあたれどもたをれず こ
れ磐《いは》を【どだいくいしずゑ】とすればなり

0726 すべてわがこのことばをきゝておこなはざるものを砂《すな》のうへに家《いへ》をたて
たるおろかなる人にたとへ【るくん】

0727 あめふりおほ水《みづ》いでかぜふき その家《いへ》にあたればたをれて そのたをれは
おほひなり

0728 耶穌このことばおはりたまふとき あつまりたる人 / \ そのをしへにおどろきあへり

0729 いかになれば學者《がくしや》のごとくにあらずして 權威《けんい》をもてるものゝ
ごとくかれらををしへたまへ【ましたくり】

●第八章●

0801 耶穌山をくだりしとき おほくの人 / \ これにしたがへ【ましたくり】

0802 みよ 癩病《らいべう》のものきたり 拜《はい》していひけるは 主《しゆ》 もしこゝろ

にかなはゞ われをきよく【してくだ [だ] されくしたまふべし】

0803 耶穌手《て》を【のばしてくのべ】かれにつけて こゝろにかなふ きよくなれといへ【ま
したればくり】 すなはちその癩病《らいべう》やがてきよく【なりましたくなれり】

0804 耶穌かれにいひけるは つゝしんで人にいはず たゞゆきておのれを祭司《さいし》にみせ
またかれらに證據《しやうこ》のためモーセが【おほせられくめいぜ】し【とほりくところ】
のそなへものを【かみさまへあげくさゝげ】よ

0805 カペナオムにいりしとき 百夫《ひやくにん》の長《かしら》かれにきたりねがふて

0806 いひけるは 主《しゆ》わがしもべ癱瘋《ちうぶ》にて家《いへ》にうちふし はなはだいた
ためり

0807 耶穌かれにいひけるは われゆきてこれを【なほしましやうくいやさん】

0808 百夫《ひやくにん》のかしらこたへていひけるは 主《しゆ》よ われはあなたをわが家屋
《やね》の下《した》にいらするにもたらず たゞことばをいひたまふのみにてわがしもべは【な
ほるくいゆ】べし

0809 それわれは權威《けんい》の下《した》にあるものなり わがしたにもまたつはものあり こ
れにゆけといへは [ば] ゆき かれにきたれといへばきたる わがしもべにこれをせよといへば
なす

0810 耶穌きゝてあやしみ したがふものどもにいひけるは まことになんぢらにつげん イスラ
エルのうちにてもいまだかくのごときおほひなる信【が [か] うのひと】にあはず

0811 われなんぢらに【いひますくいふ】 おほぐ [く] のひとノ東《ひがし》より西《にし》
よりきたり 天國《てんこく》においてアブラハム イサク ヤコブとともに坐《ざ》し【をり】

0812 國《くに》の子《こ》どもは外《そと》のくらきにおひいだされ そこにてかなしみ はが
みを【するくなす】ことあるべし

0813 耶穌百人《ひやくにん》のかしらに【ゆきなされくゆけ】 汝《なんぢ》が信【が [か]
うするくずる】 ごとくなんぢ【のいふとほりになほるくになる】べしといひければ そのときに
そのしもべは【なほりましたくいえたり】

0814 耶穌ペテロの家《いへ》にいり その姑《しうとめ》の熱病《ねつびやう》にて【ねてを
るくふしたる】をみて

0815 その手《て》をさはり すなはち熱《ねつ》さめたり 女《をんな》おきてかれらをもてな
せり

0816 日《ひ》くれたるとき 人ノ鬼《おに》にとりつかれたるおほくのものをつれてかれに
きたれば 耶穌ことばにて鬼《おに》をおひいだし やまひあるものをことノく【なほしまし
たくいやせり】

0817 【むかしのせいじん<預言者《よげんしや》】 エザヤが かれみづからわれらのわづらひ
をひきうけ われらのやまひを負《おふ》といひしにかなふためなり

- 0818 さて耶穌おのれ【のまはりをるくをめぐれる】おほくの人ノをみて むかふのきしにゆけと【おほせられましたく命《めい》ぜし】
- 0819 ひとり【の】がくしやきたりてこれにいひけるは 師《し》よ いつれへゆきたまふともわれしたがはん
- 0820 耶穌これにいひけるは 狐《きつね》はあなあり 空《そら》の鳥《とり》はねぐらあり されど人の子《こ》は枕《まくら》するところなし
- 0821 またそのでしのひとり耶穌にいひけるは 主《しゆ》 われまづゆきて父をはうむることをゆるせ
- 0822 耶穌かれにいひけるは われにしたがへ 死《し》したるものにその死《し》したるものをはうむらせよ
- 0823 耶穌舟《ふね》にのりしに そのでしたちこれにしたが【へましたくふ】
- 0824 【みなされくみよ】 舟《ふね》なみ【を かふ [ぶ] らんくにて おほはれん】とするか [が] ごとき【の】 【おほかぜくおほひなるはやて】 【が】おこ【りましたくれり】 しかるに耶穌は【ねましたくいねたり】
- 0825 そのでしたちきたり かれをおこして【まうしするにくいひけるは】 主《しゆ》 われらをすくひたまへ 【しぬるは [ば] かりでありますくほろびんとす】
- 0826 耶穌かれらにいひけるは 信《しん》【かうの】うすきものよ なんぞおそるゝや【と】 つひにおきて風《かぜ》と海《うみ》とをいましめておほひにおだやかに【なりましたればくなれり】
- 0827 人ノあやしみていひけるは 風もうみもかれにしたがふはこれいかなる人【であるかくぞや】
- 0828 耶穌むかふのきし【にふねをつけて】ゲルゲセンの地《ち》に【ゆきましたればくいたるに】 鬼《おに》にとりつかれたるふたりのもの 墓《はか》【ば】より【いでましたくいであら】これを【みるにくむかふ】 はなはだ【{あらあらしく／つよく} ぐたけく】して人そのみちを【とほるくすぐる】こと【かなひませんくあたはず】
- 0829 みよ さけんでいひけるは 神《かみ》の子《こ》耶穌よ あなたわれら【をくにおいて】 【なんとしますかくなんぞあづからんや】 ときいたらざるにわれらをせめ【るくん】とてこゝに【きましたかくきたるや】
- 0830 豕《ぶた》のおほくむらがりたるが かれらよりはるかに【はなれし ばしよにくはなれて】食《しよく》【してをるくせり】 【をみて】
- 0831 鬼《おに》耶穌にねがひていひけるは もしわれらをおひいださば 豕《ぶた》のむれにいることをゆるせ
- 0832 かれらにゆけと【いひければくいへるに】 鬼《おに》いでゝ豕《ぶた》のむれに【とりつきたるをくいりぬ】 みよ 豕《ぶた》のむれは坂《さか》より海《うみ》にかけおちて水《み

づ》に死《し》し【ければくぬ】

0833 牧《かふ》ものどもにげてむらに【は】いり このことゝ鬼《おに》にとりつかれしものゝありしことを【しらせましたくつげぬ】 みよ 邑《むら》のもの【あつまりてくこぞつて】耶穌を見《み》に【でてくいで】かれをみてこの【むらの】さかひを【でるくいづる】【こと】をねがへ【ましたくり】

●第九章●

0901 耶穌舟《ふね》にのり わたりてふるさとに【まありましたればくいたれり】

0902 みよ ひとノゝ癱瘋《ちうぶ》にて床《とこ》にふしたるものを昇《かき》きたる 耶穌かれらの信《しん》ずるをみて癱瘋《ちうぶ》のものにいひけるは 子《こ》よ こゝろ【やすくおもへくやすかれ】 汝《なんぢ》のつみゆるされたり

0903 みよ あるがくしやたちこゝろのうちにこの人は【もうすまじきくけがす】ことを【まうすくいふ】とおもへ【ましたくり】

0904 耶穌その【ひとの】【おもふことくおもはく】をしりていひけるは なんぢらはいかなればこゝろにあしきをおもふや

0905 それなんぢのつみゆるされたりといふことゝ おきてあゆめといふことといづれかやすきや

0906 そもノゝ人の子《こ》地《ち》においてつみをゆるすの權《ちから》あるをしらせんとてつひに癱瘋《ちうぶ》のものにいへり おきて床《とこ》をとり なんぢの家《いへ》にゆけ

0907 かれすなはちおきてその家《いへ》に【ゆきましたくゆけり】

0908 ひとノゝみてあやしみ かくのごときちからを人にたまひし神《かみ》をあがめ【ましたくり】

0909 耶穌こゝよりすゝみてマタイとなづくる人税関《みつぎどころ》に坐《ざ》するをみて われにしたがへといひければ たちてしたがへ【ましたくり】

0910 耶穌家《いへ》に食《しよく》するとき みよ 税吏《みつぎとり》つみある人おほくきたりて耶穌とそのでしとともに【すはつてをりましたく坐《ざ》せり】

0911 パリサイの人これをみてそのでしにいひけるは なんぢらのは師《し》【しやう】はいかなればみつぎとるものつみある人とともに食《しよく》【じを】するや

0912 耶穌きゝてかれらにいひけるは すこやかなるものは醫師《いしや》のたすけをたのまずたゞやまひあるもの【ばかりくのみ】

0913 われあわれみを【おもひますか [が] くほつして】まつりを【おもひませんくほつせず】とはこれいかなるこゝろか ゆきてまなぶべし それわれはたゞしきものをまねくためにきたらず つみあるものを悔《くひ》あらためさせ【るくん】ためなり

0914 そのときにヨハンネのでし耶穌にきたりていひけるは われらとパリサイの人とはをり /

＼禁食《だんじき》するに【あなた<師《し》】の【お】でし禁食《だんじき》せざるは【いかなるゆへ<いかに】ぞや

0915 耶穌かれらにいひけるは 新娶《はなむこ》のをるうちにその友《とも》【かなしい<かなしむ】こと【はいたしません<あたはず】新娶《はなむこ》かれらに【わかる<ひきわけらるゝ】【とき<日】【か〔が〕】【きましたならば<きたらん】そのときにこそ禁食《だんじき》【を】【いたしましよ<すべけれ】

0916 ふるき【きものに<ころもを】あたらしき布《ぬの》【のつき〔ぎ〕あてする<にてつくるふ】ものなし いかにとなればそのつくるふ【ほかのところか〔が〕かへりてさける<ものはころもをさく】ゆゑに そのやぶれなほあしく【なります<なれり】

0917 またふるき革袋《かはふくろ》にあたらしき酒《さけ》をいるゝものなし もしいれなばふくろはりさけ酒《さけ》もいでゝ ふくろもまた【うしなへますから<むなしからん】【φ<かへつて】あたらしきふくろに【は】あたらしき酒《さけ》を【いれなは〔ば〕<いれて】【ふくろも丈夫《じょうぶ》さけもへらぬ<ふたつながらたもてる】ものなり

0918 耶穌かれらにこのことをいふとき【みなされ<みよ】ある【おもだちたるひと<幸《つかさ》】きたり拜《はい》してかれにいひけるは わがむすめ【か〔が〕】いま【φ<はや】【しにそうであります<死《し》せん<とす】【あなた】【きて<きたりて】かれに手《て》を【つけ【てくださるならば<たまはゞ】【いきます<生《いく》べし】

0919 耶穌【すく〔ぐ〕に】たちてそのでし【をつれ<とともに】かれに【ともなはれてゆきま<す<したがへり】

0920 みよ 十二年血漏《ちろう》をわづらひたる女《をんな》うしろにきたりてその【きもの<ころも】のすそにさはり【ました<ぬ】

0921 いかにとなればもしころもに【なり<とくだにも】さはらば【なほる<いへん】とおもへばなり

0922 耶穌ふりかへり女《をんな》をみていひけるは むすめや こゝろやすかれ 汝の信《しん》【かう】汝《なんぢ》を【なほします<いやせり】すなはち女《をんな》このときより【なほりました<いえたり】

0923 耶穌その【おもだちたるひと<つかさ】の家《いへ》に【はいる<いる】とき 笛《ふえ》をふくものと人ト\のさわがしきをみて

0924 かれらにいひけるは【どきなされ<退《のけ》よ】それむすめは死《し》【にたる<する】にあらず たゞ【ねむりたるなり<いねたり】人ト\ 耶穌をあざわらへ【ました<くり】

0925 人ト\【を】いだ【φ<され】しち【へやに】【はいり<いり】て その手《て》を【とれば<とりしに】少女《をとめ》【おきあか〔が〕りました<おきたり】

0926 このきこえあまねくその土地《とち》にひろま【りました<れり】

0927 耶穌こゝをさるときふたりの【めくら<目《め》しひ】【これ】したがひ よび【つけ】

ていひけるは ダビデの【こくすゑや】 われらをあはれみたまへ

0928 さて家《いへ》にいるに目しひきたりければ 耶穌かれらにいひけるは 【おまへ<これ】は【わしが<わが】 【おこなふことをくなしうることゝ】 信《しん》ずるか かれにいひけるは 主《しゆ》 【そのとほりにいたしますくさなり】

0929 すなはちかれらの目に手《て》をつけていひけるは 汝《なんぢ》らの信《しん》ずるごとくになれと

0930 すなはちその眼《め》 【あきらかになりました<あけられたり】 耶穌かれらにきびしくいましていひけるは 【おまへこのことを】 【ひとに知らせぬ<人のしらぬ】 やうにつゝしめよ

0931 されどもかれらいでゝあまねくその土地《とち》に耶穌の名をひろめし

0932 かれらいつるとき みよ 人ノ、鬼《おに》にとりつかれたる暗啞《おし》をつれてかれにきたる

0933 鬼《おに》おひいだされて暗啞《おし》ものいへり 人ノ、あやしみいひけるは イスラエルのうちにいまだかゝることはみえざりきと

0934 パリサイの人かれは鬼《おに》のかしら【をたのみて<によりて】 鬼《おに》を【おひだすのみ<おひだせり】 といへ【ましたくり】

0935 耶穌あまねくむらざとをめぐり その會堂《くわいどう》にてをしへ 天國《てんこく》の福音《ふくいん》をひろめ 民《たみ》のうちすべてのやまひ すべてのわづらひを【なほしました<いやせり】

0936 人ノ、をみてあはれみ【ましたくぬ】 かれらは牧《かふ》ものなき羊《ひつじ》のごとく なやみまたちりノ、になりしゆゑなり

0937 そのときでしたちにいひけるは まことに穢《かりいれ》はおほくしてはたらくものはすくなし ゆゑにかりいれの主《しゆ》にそのかりいれにはたらくものをつかはすことをねがふべし

●第十章●

1001 さて耶穌その十二でしをよび かれらにけがれたる鬼《おに》どもをおひだし またすべてのやまひすべてのわづらひを【なほす<いやす】 のちからを【たまはりました<たまへり】

1002 それ十二の使者《ししや》の名《な》左《さ》のごとし はじめはペテロといへるシモンとその兄弟アンデレ ゼベダイの子《こ》ヤコブとその兄弟ヨハンネ

1003 ピリソ [ツ] ポ バルトロマヒ トマと税吏《みつぎとり》 マタイ アルパイの子《こ》ヤコブとタツダイとなづくるレツバイ

1004 カナンのシモン イスカリヲテのユダ これはすなはち耶穌をわたせしものなり

1005 耶穌この十二をつかはし かれらに命《めい》じていひけるは 異邦《いほう》のみちにゆ

- くなかれ またサマリヤ人のむらにもいるなかれ
- 1006 むしろイスラエルの家《いへ》のまよひし羊《ひつじ》にゆくべし
- 1007 ゆきて 天國《てんこく》ちかきにあるといひひろめよ
- 1008 病《やむ》ものをいやし 癩病《らいびやう》をきよくし 死《し》せるをよみがへらせ 鬼《おに》をおひいだせ たゞ【うけるならばくうけたれば】たゞほどこす【がよいくべし】
- 1009 汝《なんぢ》らの帯《おび》に金《かね》または銀《ぎん》または錢《ぜに》を【たくはえるくとゝのふる】【こと】なかれ
- 1010 また旅《たび》ぶくろ ふたつのした衣《ぎ》履《くつ》杖《つえ》もまた【そのとほりなりくしかり】それはたらくものはその食物《しよくもつ》を【もらひますくうべき】ものなればなり
- 1011 すべてむらざとにいらば そのなかのよろしきものをたづねて いくまでそこにとゞまれ
- 1012 家《いへ》に【は】いるとき安否《あんひ》をとへ
- 1013 もしその家《いへ》よからば汝らのやすきはそこにいたらしめよ もしよからずんば汝らのやすきはおのれにかへらしめよ
- 1014 もし汝らをうけず汝らのことばをきかざるものあらば その家《いへ》またはむらをさるとき足《あし》のちりをはらふべし
- 1015 まことに汝《なんぢ》らにつげん 審判《さばき》の日ソドマとゴモラの地《ち》はこのむらよりなほやすかるべし
- 1016 みよ われ羊《ひつじ》を狼《【やまいぬくおほかみ】》のうちにいるゝがごとく汝らをつかはす ゆゑに蛇のごとくさとく鳩《はと》のごとくをとなしかれ
- 1017 つゝしんで人に【きくこゝろ】をつけよ それ人汝らを裁判所《さいばんしょ》にわたし 又その會堂《くわいどう》においてむちうつ【ことあればくべければ】なり
- 1018 またわがために奉行《ぶぎやう》および王《わう》のまへに【ひきださるくひかる】べし これかれらと異邦人《いほうじん》に證據《しやうこ》をたつためなり
- 1019 人汝らをわたさんとき いかやうにまたなにをいはんとおもひわづらふなかれ いかにとなればいふべきことをそのとき汝らにたまはるべし
- 1020 これ汝らみづからいふあらず 汝らの父の【かみく靈《みたま】】汝ら【にいはせますくをしていはしむる】なり
- 1021 兄弟を死《し》にわたし また父は子をわたし 子どもは二親《ふたをや》を訴《うたへ》てこれらをころさせん
- 1022 また汝らわが名《な》のためにすべての人に悪《にくま》れん さりながらおはりまで【しんぼうするくしのぶ】ものこそ【すくはれますくすくはるべけれ】
- 1023 人このむらに汝らをせめばほかのむらににげよ まことになんぢらにつげん 汝ら人の子

きたるまへにイスラエルのむら / \ をめぐりつくさ【ずくじ】

1024 では【ししやう<師《し》】よりまさらず またしもべは主《あるじ》よりまさらず

1025 ではその師《し》のごとく しもべはそのあるじのごとくならば【じうぶんなる<足《たる》】べし もし人あるじをベルゼブルとなづけば ましてその家《いへ》のものをや

1026 ゆゑにかれらをおそるゝ【こと】なかれ いかになればつゝまれたるものはあらはれ かくれたるものはしられ【ぬくざる】【といふ】こと【なしくなければなり】

1027 われ汝らにくらきにつげしことはあかるきにのべよ 耳《みゝ》にきゝしことは屋【《いへ》】のうへにいひひろめよ

1028 身《【からだ<くみ】》をころして魂《たましひ》をころすことあたはざるものをおそるゝ【こと】なかれ 寧【《やすんじ》て<《むしろ》】たましひと體《からだ》とを地獄《ぢごく》にほろぼすことを【する<うる】ものをおそれよ

1029 二羽《には》の雀《すゞめ》は一錢《いつせん》にて【うるにあらず<うらざらん】や その一羽《いちは》も汝らの父の【ゆるしなれば<ゆるさずんば】地《ち》におつること【なしくあるまじ】

1030 汝らの【あたま<かしら】の髪《け》もみなかぞへらる

1031 ゆゑにおそるゝなかれ 汝らはおほくの雀《すゞめ》よりもまされり

1032 ゆゑにすべて人のまへにわれをしるといはんものは われもまたわが天《てん》にまします父のまへにわれをしるといふべし

1033 人のまへにわれをしらす【ず】といはんものは われもまた天にましますわが父の【かみさまの】まへにかれをしらずといふべし

1034 われ地《ち》【のひと】におだやか【なる】をいだし【せ】んために【きたのではありません<きたるとおもふなかれ】 おだやか【なる】をいだし【せ】んとにあらず かへつて刃《やいば》をいだし【せ】んために【きました<きたれり】

1035 それわれ人をその父にそむかせ 娘《むすめ》をその母《はゝ》にそむかせ 嫁《よめ》をその姑《しうと》にそむかせんために【きました<きたれり】

1036 人の仇《【かたき<あだ】》はその家のものなるべし

1037 われよりも父母を【あいす<いつくしむ】ものはわれに【{よろしからざる/よからざる}<かなはざる】ものなり われよりも子女《むすこむすめ》を【あいす<いつくしむ】ものはわれに【{よろしからざる/よからざる}<かなはざる】ものなり

1038 その十字架《じうじか》をとつてわれにしたがはざるものもわれに【{よろしからざる/よからざる}<かなはざる】ものなり

1039 そのいのちを【ほしがる<もとむる】ものはこれをうしなひ わがためにそのいのちをうしなふものは【いのちがあります<これをもとむべし】

1040 汝らを【うける<うくる】ものはわれを【うける<うくる】なり またわれを【うける<

うくる】ものはわれをつかはせしものを【うけるくうくる】なり

1041 預言者《よげんしや》の名《な》によりてよげんしやを【うけるくうくる】ものはよげんしやのむくひを【うけますくうくべし】

1042 たゞしき人の名《な》によりてたゞしき人を【うけるくうくる】ものはたゞしき人のむくひを【うけますくうくべし】門徒《でし》の名《な》によりてこのちいさきひとりのものにひやゝかなる水《みづ》いつぱひにてもまするものはまことに汝らにつげんそのものこそそのむくひをうしなはざるべけれ

●第十一章●

1101 耶穌その十二の門徒《でし》にをしへ【てしまひましたくおはりし】とき そのむら／＼において道《みち》ををしへひろめんためにこゝを【でましたくさりぬ】

1102 さてヨハンネ獄《【ろうやくひとや】》においてキリストのわざをきゝ そのでし二人《ふたり》をつかはして

1103 かれらにいひけるは きたるべきものはあなたなるか あるひは他《ほか》のものをまたんか

1104 耶穌かれらにこたへていひけるは 聞《きゝ》みるところのことをゆきてヨハンネに【かたるくしめす】べし

1105 目《め》しひは見《み》え 跛者《あしなへ》はあゆみ 癩病《らいべう》はきよく つんぼはきこえ 死《し》したるものはよみがへり まづしきものには福音《ふくいん》をきかせ【ますくり】

1106 われによりてつまづかざるものはさいはひなり

1107 かれらかへりしのち耶穌ヨハンネについて人／＼にいひいでけるは なにをみんとて野《の》に【でましたかくいしや】 風《かぜ》にうごかざるゝあしなるか

1108 なにをみんとていでしや やはらかき【きものくころも】をきたる人なるか みよ やはらかき【きものくころも】をきるものは王《わう》たちの宮《いへ》にあり

1109 なにを【みるくみん】とて【でましたかくいしや】 預言者《よげんしや》なるか【まことにく實《げに》も】なんぢらにつげん よげんしやよりすぐれたるものなり

1110 それみよ われ汝のまへに道《みち》を【まうくくそなふる】わがつかひを汝のまへにおくるとするされたるものはこれなればなり

1111 まことに汝らにつげん 女のうみたるものゝうちにいまだ洗禮《せんれい》をなすヨハンネよりおほひなるものおこらず しかしながら天國《てんこく》のちいさきものはこれよりおほひなるものなり

1112 洗禮《せんれい》をなすヨハンネのときより今にいたるまで天國《てんこく》ははげみとられ はげむものはこれをとるべし

- 1113 それすべての預言者《よげんしや》と律法《おきて》はヨハンネの時《とき》までよげん【しておきましたくせしなればなり】
- 1114 もし汝らわがことばを【うけるくくる】をこのまば きたるべきところのエリアはこれなり
- 1115 きく耳《みゝ》あるものはきくべし
- 1116 われこの世《よ》をなにゝたとへんや 童《【こどもくわらべ】》市《いち》に坐《ざ》してその友《とも》をよびて
- 1117 汝らに笛《ふえ》をふけどもおどらず 汝らになげゝども汝ら【へいきであるくむねうたず】といふに似《に》たり
- 1118 それヨハンネ食《くは》ず飲《のま》ずしてきたれば 人は鬼《おに》につかれしものといへり
- 1119 人の子《こ》は食飲《くひのみ》してきたれば 人は みよ 食《しよく》をたしみ酒《さけ》をのむものにて 税吏《みつぎとり》およびつみあるものと友《とも》【だち】なりといへ【ましたくり】 されども【がてんすることはやきくさとき】はその子《こ》どもにてよしとせられり
- 1120 そのとき耶穌おほくの不思議《ふしぎ》なるわざをなしたまひたるむら / \ 悔《くひ》あらためざるによつていましめいひいでは
- 1121 わざはひなるかな コラジン わざはひなるかなベツサイダ それ汝らのうちになしたる不思議《ふしぎ》のわざをタイロとシドンになされしならば 疾《とく》より麻《あさ》を着《き》灰《はい》を身《み》にかけてくひあらたむべきものを
- 1122 されどもわれ汝らにつげん 審判《さばき》の日にタイロとシドンは汝らよりもなほ【かるくあるくやすかる】べし
- 1123 天《てん》よ あげられたるカペナオムよ 汝冥途《【めいどくよみち】》におとさるべし いかになれば汝になしたるふしぎのわざをソドマになせしならば今日《けふ》までたもつべきものを
- 1124 されどもわれ汝らにつげん 審判《さばき》の日にソドマの地《ち》は汝らよりなほやすかるべし
- 1125 そのとき耶穌こたへていひけるは 天地《てんち》の主《しゆ》たる父【のかみ】よ このことをかしこきときものに隠《かく》し 幼稚《おさなご》にあらはしたまふを謝《しや》す
- 1126 父《ちゝ》よ げにもしかり それかくのごとき父のおもひにかなひしことなればなり
- 1127 萬物《ばんもつ》はわが父よりあづけられたり 父の外子《こ》をしるものなく また子《こ》と子に父をあらはされしものゝ外父をしるものなし
- 1128 すべてつかれたるものまたおもきを【せ】負《おふ》たるものはわれにきたれ われ汝ら

をやすますべし

1129 わが軛《くびき》を負《おふ》てわれにまなべ それわれはこゝろにおいて柔和《にうわ》にしてへりくださるものなり されば汝らのこゝろにやすきを【{おほ [ぼ] ゆ/おほ [ぼ] え}くう】べし

1130 それわが軛《くびき》はやすく わが荷《に》は【かるくかろ】ければなり

●第十二章●

1201 そのとき耶穌安息日《あんそくにち》に禾田《むぎばたけ》をすぎしに そのでしたち飢《うゑ》ければ 穂《ほ》をつみ食《くひ》はじめたり

1202 パリサイの人これをみて耶穌にいひけるは みよ あなたのよし安息日《あんそくにち》になすべからざることをなす

1203 かれらにいひけるは ダビデとそのとも飢《うゑ》たりしときなせしをよまざるや

1204 すなはち神の殿《みや》にいりて 祭司《さいし》の外おのれあるひはともものものくらふべからざるそなへの餅《ぱん》を【{くひ/たべ}ましたくくらへり】

1205 また安息日《あんそくにち》に祭司《さいし》は殿《みや》のうちにて安息日《あんそくにち》をおかせどもつみなきことを律法《おきて》においてよまざるや

1206 われなんぢらにつげん 殿《みや》よりおほひなるものこゝにあり

1207 われあはれみをこのみて祭《まつり》をこのまずと このこゝろをしらばつみなきものをつみせざるべし

1208 それ人の子《こ》は安息日《あんそくにち》の主《しゆ》なればなり

1209 こゝをさりてかれらの會堂《くわいどう》にいるに

1210 みよ かた手《て》【{きかぬ/かきた}くなへたる】人ありければ かれら耶穌にとひけるは 安息日《あんそくにち》にいやすことはなすべきことか これかれを訴《うつたへ》んとほつするためなり

1211 かれらにいひけるは 汝らのうちひとつの羊《ひつじ》をもつもの その羊《ひつじ》安息日《あんそくにち》に坑《あな》におちいらば これをとりあげざるか

1212 いかん人は羊よりすぐるゝものならずや ゆゑに安息日《あんそくにち》によきをなすはよし

1213 つひにその人に汝が手《て》をのべよといひければのばせり すなはち外の手《て》のごとくいえたり

1214 パリサイの人いでゝ いかんしてか耶穌をころすべきやと【はかりごとをしますくあひはかれり】

1215 耶穌これをしりてこゝをさるに おほくの人ノ、これにしたがへ【ましたくり】かれらをみな【なほしましたくいやせり】

1216 おのれを人にあらはすべからずといましめ【ましたくり】

- 1217 こゝに【{むかしのせいじん／かみのともだちのやうなるひと} <よげんしや】エザヤの
いひしことばにかなへ【ましたくり】 いはく
- 1218 みよ わがゑらみししもべ わがいつくしみ心にかなひしもの われこれにわが靈《たま【し
い】》をあたへ 異邦人《いほうじん》にさばきをしめさ【せましようくすべし】
- 1219 かれは【くらべることをいたしませんくきそはじ】 【こゑをたてませんくさけばじ】 人
ちまたにおいてそのこゑを【ききますまいくきくまじ】
- 1220 たゞしき【こと】【の勝《かつ》やうにしくを勝《かち》とげ】【させるくさする】まで
いたみし葦《あし》を折《をら》じ けぶれる麻《あさ》をけさじ
- 1221 異邦人《いほうじん》もその名によるべしと
- 1222 こゝに鬼《おに》にとりつかれたるめくらの暗《おし》なるものつれられて耶穌にきたれ
り めしひにて暗《おし》なるものをものいひ見《み》ゆるやうに【なほしましたくいやせり】
- 1223 人トゝみなあやしみて これダビデの子《こ》にあらずやといへ【ましたくり】
- 1224 パリサイの人きゝていひけるは この人は鬼《おに》のかしらベルゼブルをつかはざれば
鬼《おに》をおひいさず
- 1225 耶穌その【おもふやうすくおもはく】をしりてかれらにいひけるは すべてあひあらそふ
國《くに》は【あらされますくあらさるゝなり】 すべてあひあらそふ邑《むら》や家《いへ》
はたつべからず
- 1226 もしサタナ サタナをおひいさば おのれとあひあらそふなり しからばその國《くに》
いかでたつべきや
- 1227 もしわれベルゼブルによりて鬼《おに》をおひいさば 汝らの息子《むすこ》たれによ
りておひいさすや ゆゑにかれらは汝らの裁判人《さいばんにん》なるべし
- 1228 もしわれ神靈《みたま》によりて鬼《おに》をおひいさば 神の國《くに》汝らにはや
のぞめり
- 1229 あるひは先《まづ》つよきものを縛《しば》らざればつよきものゝ家《いへ》にはいり い
かでその道具《どうぐ》をうばふことをえんや その後《のち》にこそその家《いへ》【も う
ばはれますくを うばふべけれ】
- 1230 われとともに【をくあ】らざるものはわれにそむき われとともにあつめざるものはちら
すなり
- 1231 【その】ゆゑに汝らにつげん すべてひとトゝのおかせるつみと神をけがすことは【ゆる
されましようくゆるされん】 されどひとトゝの聖靈《せいれい》をけがすことは【ゆるされま
せんくゆるさるべからず】
- 1232 人の子《こ》にそむきていふものはゆるさるべし 聖靈《せいれい》にそむきていふもの
はこの世においてもまた後《のち》の世においても【ゆるされませんくゆるさるべからず】
- 1233 あるひは樹《き》もよくその實《み》もよくせよ あるひは樹《き》もあしくその實《み》

- もあしくせよ いかにとなれば樹《き》はその實《み》によりてしられ【ますくたり】
- 1234 あゝ蝮《まむし》のたねよ 汝ら悪《あく》にしていかでか善《よき》ことを【いひますることか [が] て [で] きますかくいふべけんや】 それこゝろにみつるよりくちに【いひたきもので [で] ありますればくいふものなれば】なり
- 1235 よき人はこゝろにつみたるよきことをい【ひ】だし またあしき人はこゝろにつみたるあしきことをい【ひ】だす
- 1236 われなんぢらにつげん 人のいひ【けるくし】すべてのむなしきことばゝ審判《さばき》の日にそれについてうちあかすべし
- 1237 それなんぢのことばによりてつみなしとせられ また汝のことばによりてつみありと【せらるるはつ [づ] なればくせらるべければ】なり
- 1238 ときにある學者《がくしや》とパリサイの人こたへていひけるは【ししやうく師《し》】よ われら汝よりのしるしをみると【{おもふ/のそ [ぞ] む} くほつす】
- 1239 こたへてかれらにいひけるは 姦惡《かんあく》なる世《よ》はしるしをもとむれと【ど】も 預言者《よげんしや》ヨナのしるしのほかしるしをこれにあたへられ【ませんくざるべし】
- 1240 それヨナは三日《みつか》三夜《みよ》巨魚《うを》のはらのなかにありしごとく 人の子《こ》も三日三夜地《ち》のなかにあるべし
- 1241 ニネベの人この世《よ》とともに審判《さばき》によつてこの世《よ》をつみにさだむべし いかにとなればかれらはヨナのいひふらせしによりて悔《くひ》あらためたり しかるに みよ ヨナよりまされるものこゝにあり
- 1242 南《みなみ》の女王《によわう》この世《よ》とともにさばきにたちてこの世《よ》につみにさだむべし いかにとなればかれは地《ち》のはてよりソロモンの智慧《ちゑ》をきくために【きましたくきたれり】 しかるに みよ ソロモンよりまされるものこゝにあり【ます】
- 1243 悪鬼《あくき》人よりいでたるとき 水《みづ》なきところをまはりて やすきをもとむれどもえず
- 1244 よつてわがいでし家《いへ》にかへらんといひ すなはちかへりたれば 明《あけ》はなし掃除《そうじ》してまたかざりたるを見《み》
- 1245 ついにゆきておのれよりあしき七《なゝつ》の悪鬼《あくき》をともなひ入てそこにをるその人の終《おはり》のありさまは前よりなほわるくなるべし このあしき世《よ》もまたかくのごとくならん
- 1246 耶穌人かゝにかたれるうちに みよ その母《はゝ》と兄弟そとにたちてかれにもものいはんと【おもふくほつす】【やうすを】
- 1247 ある人耶穌にいひけるは みよ あなたの母《はゝ》と兄弟あなたにいはんとほつしてそとに【たつてをりますとくたてり】
- 1248 つげしものにこたへていひけるは わが母《はゝ》はたれぞ またわが兄弟はたれぞや

- 1249 手をのばし そのでしたちにさしていひけるは みよ わか [が] 母《はゝ》と兄弟なり
 1250 いかにとなればわが天《てん》にまします父《ちゝ》の旨《むね》をおこなふものはそれ
 こそわが兄弟わが姉妹《しまい》わが母《はゝ》【なりくなれ】

●第十三章●

- 1301 その日耶穌家《いへ》をいでゝ海《うみ》べに【すはりましたく座《ざ》せり】
 1302 おほくのひとノかれにあつまりきたりければ 耶穌舟《ふね》にのりて【すはりましたく座《ざ》し】
 すべての人ノはきしに【たつてをりますくたてり】
 1303 耶穌たとへをもつて人ノにさまノのことをかたりていひけるは みよ たねまくもの
 蒔《まき》に【でたわいくいであり】
 1304 まく時《とき》にあるたねはみちのほりにおちたれば 鳥《とり》きたりて【たべてく啄《つひば》み】
 【しまひましたくつくせり】
 1305 あるたねはつちすくなき礫地《いしぢ》におち 土《つち》うすければ【ぢきくたぢち】
 に【はえましたくもえいで】
 1306 日いでゝやかれ 根《ね》なければかれ【ましたくたり】
 1307 またあるたねは棘《いばら》のなかにおち【ましたくて】 【この】いばら【が】そだち
 【て】これを【ふさぎましたくふさげり】
 1308 またあるたねはよき地《ち》におちてあるひは百倍《ひやくばい》あるひは六十倍《ばい》
 あるひは三十ばい【みをもちましたくみのれり】
 1309 きく耳《みゝ》あるものはきくべし
 1310 門徒《でし》たちきたりてかれにいひけるは なにゆゑにたとへをもてかれらにかたるや
 1311 こたへていひけるは 汝らに天國《てんこく》の奥義《おくぎ》をしらせたまはれども かれらにはし
 らせたまはざればなり
 1312 それもつものはあたへられてなほあまりあるべし もたぬものはまたもつものまでもとら
 るべし
 1313 かれらは見《み》てみえず きゝてきこえず さとらざるゆゑに われたとへをもつてかれら
 に【とききかせますくいへり】
 1314 エザヤのよげんに 汝は耳《みゝ》にきけと [ど] もさとらず 目にみれどもみえず
 1315 それこの民《たみ》のこゝろはふとくなりて 耳《みゝ》はとほく 目はとぢ【ましたくた
 り】 これその目にて見《み》 耳《みゝ》にてきゝ ことろにてさとり あらためてわれかれら
 をいやさんことを【おそるるくおそる】と かく【のごとく】【まうしたるくいへる】にかなへ
 り
 1316 汝らの目は【みえくみ】 耳は【きこゆるくきく】 ゆゑに福《さいはひ》なり
 1317 いかにとなればまことに汝らにつげん おほくの預言者《よげんしや》とたゞしき人は汝

らが見《みる》ところをみんなとほつすれども 見《みる》ことをえず 汝らがきくところをきかんとほつすれども きくこと【が て [で] きなかつたくを えざりき】

1318 ゆゑに汝らたねまきのたとへをきけ

1319 天國《てんこく》のをしへをきゝてさとらざるものは あしきものきたりてそのこゝろにまかれたるものをうばふ これみちのほとりにまきたるものなり

1320 いし場《ば》にまかれたるものは これをしへをきゝ すみやかにこれをよろこびてうくるものなり

1321 しかしながらおのれに根《ね》なくしてしばらくなるものなれば をしへのために難義《なんぎ》あるひはせめらるゝことのおこるときには すみやかにみちに【け】つまづくものなり

1322 また棘《いばら》のなかにまかれたるものは これをしへをきけども この世《よ》のこゝろづかひ またたからに【おのれのこころとられるくあざむかるゝ】ことがをしへ【のみち】をふさぎてみのらざるものなり

1323 よき地《ち》にまかれたるものは これをしへをきゝてさとり 百倍《ひやくばい》あるひは六十倍あるひは三十倍も【{みのなる／みので [で] きる} くみる】ものなり

1324 またたとへをかれらにしめしていひけるは 天國《てんこく》はたけによきたねをまく人に似《に》【ておりますくたり】

1325 人ノいねたるうち その敵《【かたきくあだ】》きたり麦《むぎ》のなかからす麦《むぎ》をまきて【にけ [げ] さりましたくされり】

1326 苗《なへ》【か [が]】【はえく生《しやう》じ】て みのりたるとき からす麦もまたあらはれ【ましたくたり】

1327 あるじのしもべきたりていひけるは 主《しゆ》よ はたけにはよきたねをまかざりしか からす麦【の】【はえましたくある】は【と [ど] こからきましたかくいづこよりぞや】

1328 しもべにいひけるは【かたきくあだ人《びと》】【か [が]】これを【そんなこと】【しましたくなせり】と【しもをとこくしもべ】あるじに【まうしまするくいひける】は【そうならばくしからば】われらゆきて【ぬきとりましようかくくさぎることをほつするや】

1329 否《いな》おそらくは汝らからす麦《むぎ》を【ぬくとてくくさぎりて】麦もまたともに【ぬくもしれぬくぬかん】

1330 かりいれまでふたつながらそだておく【がよいくべし】【かりいれのくかりいるゝ】とき われかるものに先《まづ》からす麦《むぎ》をとりあつめて【たきものくやくやう】に【たは [ば] くつか】ね【させ】麦をばわがくらにおさめよと【まうしましよくいはん】

1331 またたとへをかれらにしめしいひけるは 天國《てんこく》は人芥種《からしだね》をとりてそのはたけに【まきたるくまける】がごとし

1332 よろづのたねよりちいさきものといへども そだつときはほかのくさより【おほきくなりますくおほひなる】ものにして そらの鳥《とり》きたりてそのえだに【とまるくやどる】ほど

の樹《き》と【なりますくなれり】

1333 またたとへをかれらにかたりけるは 天國《てんこく》は婦《をんな》三斗の粉《【こな
くこ】》【のなか】に【いれてくとりいりて】まつたくふくらしたる麴《かうじ》のごとし

1334 耶穌たとへをもて人ぐゝにすべてこのことを【をしへくかたり】たまへ【ましたくり】た
とへにあらざればかれらにかたりたまはず

1335 これよげんしやによりていはれたることばに われたとへをまうけて口《くち》をひらき
世《よ》のはじめよりかくれたることをいひ【ださんくいでん】といひしに【かなふへ [べ]
きくかなへん】ためなり

1336 つひに耶穌人ぐゝをかへして家《いへ》に【はいれりくいれり】 そのでしこれにきたり
ていひけるは はたけのからす麦《むぎ》のたとへをわれらにときたまへ

1337 こたへてかれらにいひけるは よきたねをまくものは人の子《こ》なり

1338 はたけはこの世界《せかい》なり よきたねはこれ天國《てんこく》の子《こ》どもなり か
らすむぎは悪魔《あくま》の子《こ》どもらなり

1339 それをまく敵《あだ》は悪魔《あくま》なり かりいれは世《よ》のおほりなり かるもの
は天《てん》のつかひたちなり

1340 からす麦《むぎ》はあつめて火にやかるゝごとく この世のおほりに【なりますとくおい
ても】【そのくかくの】【とほりにくごとく】【なりますぞくなるべし】

1341 人の子そのつかひたちをつかはして その國《くに》のうちよりすべて【け】つまづかす
るものとそむくことを【いたすくなす】人とをあつめて

1342 これを爐《ろ》の火になげ【いれましようくいるべし】 そこにてかなしみまた齒《は》
がみすること【ありますぞくあるべし】

1343 そのときたゞしき人はその父《ちゝ》の國《くに》において火のごとくかゞやくべし き
く耳《みゝ》あるものはきくべし

1344 また天國《てんこく》ははたけにかくれたるたからのごとし 人これを見《み》いだせば
かくして よろこびによりてゆき そのもてるものをみなうりてそのはたけを買《か》ふ

1345 また天國《てんこく》はよき真珠《しんじゆ》をもとめんとするあきうどのごとし

1346 ひとつのあたへたかき真珠を見《み》いだせば ゆきてそのもてるものをみなうりてこれ
を買《か》へ【ますくり】

1347 また天國《てんこく》は海《うみ》にうちてさまぐゝの魚《うを》をとりたる網《あみ》
のごとし

1348 すでにみちたるときはきしにひきあげ すはりてよきものをうつはにいれ あしきものを
【すてますくすてたり】

1349 世《よ》のおほりにおいても【そのくかくの】ごとなるべし 天《てん》のつかひたち
いでゝたゞしきものゝうちよりあしきものをとりわけ

- 1350 爐《ろ》の火にこれをなげ【いれますくいるべし】そこにてかなしみと齒《は》がみすること【ありましようくあらん】
- 1351 耶穌かれらにいひけるは みな【が】このことをさとり【ましたやくしや】かれにいひけるは 主《しゆ》【さとりましたくしかり】
- 1352 耶穌かれらにいひけるは しかればすべて天國《てんこく》【のこと】についてをしへられた【ゆる】がくしやは あたらしきものとふるきものをその庫《くら》よりいだす家《いへ》のあるじのごとし
- 1353 さて耶穌このたとへをいひおはりてこゝを【たちさりましたくされり】
- 1354 そのふるさとにいたりてその會堂《くわいどう》において人々\のあやしむばかりにをしへたまひ【ましたればくれば】人々\いひけるは この人はこの智慧《ちゑ》とふしぎなるわざは【どこから {もらひ/さづかり} ましたかくいづれよりぞや】
- 1355 これ匠《【た [だ] いく < たくみ】》の子《こ》に【ありますにくあらずや】その母《はゝ》マリアその兄弟はヤコブ ヨセ [フ] シモン ユーダ【でありますくといはずや】
- 1356 その姉妹《しまい》みなわれらとともに【だち】ならずや しかるにこの人はすべてこれらのことは【どこからくいづれより】ぞや
- 1357 つひにかれにつひて【つまづきましたくつまづけり】耶穌かれらにいひけるは よげんしやはそのふるさとまたその家《いへ》のほかにも尊《たつと》まれざることなし

●第十四章●

- 1401 そのとき國《くに》のわかれをおさむるへロデ耶穌の評判《へうばん》をきゝ
- 1402 その家來《けらい》にいひけるは これ洗禮《せんれい》のヨハンネなり かれよみがへりしゆゑに 彼《かれ》においてふしぎなるわざをおこなへ【ますくり】【と】
- 1403 そも / \へロデその兄弟ピリツポの妻《つま》へロデヤのことによりにてヨハンネをとらへしばかりて【らうくひとや】に【いれましたくいれたれば】なり
- 1404 そ【れ】はヨハンネへロデに このをんなをめとるはよろしからずといひしゆゑなり
- 1405 ヨハンネをころさんとほつすれども民《たみ》をおそれ【ましたくたり】これ民《たみ》はヨハンネをよげんしやと【いたしますゆへくすれば】なり
- 1406 へロデの誕生日《たんじやうび》をいはひしとき へロデヤのむすめその坐上《【ぎのうへくざし [じ] やう】》に【まひを】舞《まふ》て へロデをよろこばせ【ましたくたり】
- 1407 ゆゑになにゝてももとむるところのものを【あげましようくあたへん】と【{ちかひをたて/やくそくし} ましたくちかひて約《やく》せり】
- 1408 かれはその母《はゝ》にすゝめられてありければ 洗禮《せんれい》のヨハンネの首《くび》を盤《ぼん》にのせてこゝにたまはれといへ【ましたくり】
- 1409 王《わう》うれひけれども ちかひとまたともに【ざしきく席上《せきじやう》】にをる

- ものゝゆゑに あたゆることを【おほせられました<命《めい》ぜり】
- 1410 すなはち人をつかはし ひとやにてヨハンネの首《くび》をきらせ【ました<たり】
- 1411 その首《くび》をぼんにのせてむすめにあたへければ むすめはこれをその母《はゝ》に【さしあげ [げ] ました<さゝげたり】
- 1412 ヨハンネのでしたちきたりて 尸《かばね》をとりてはうむり ゆきて耶穌につげたり
- 1413 耶穌これをきゝ 人をさけてさびしきところへ舟《ふね》にてそこを【さりました<されり】 人ノゝきゝてむらノゝをいで 歩行《かち》にてこれにしたがへ【ました<り】
- 1414 耶穌いでゝおほくの人を見《み》 【あはれみて<あはれんで】 そのやめるものを【なほしました<いやせり】
- 1415 日くれてそのでしきたりていひけるは これさびしきところにしてときはやおそし 人ノゝむらノゝにゆきて食《しよく》もつをもとむるために【つかはし<いだし】 たまへ
- 1416 耶穌かれらにいひけるは ゆくにおよばず なんぢら食物《しよくもつ》をかれらにあたへよ
- 1417 耶穌にいひけるは われら【は】 こゝにたゞ五《いつゝ》のぱんと【たつた】 ふたつの魚《うを》のみあり【ます】
- 1418 耶穌 それをこゝへもちきたれといへ【ました<り】
- 1419 草《くさ》のうへにすはれと人ノゝに【おほせられ<命《めい》じ】 て 五《いつゝ》のぱんとふたつの魚《うを》とをとり 天《てん》をあふぎて謝《しや》し ぱんをわりて門徒《でし》にあたへ だしは人ノゝにあたへたり
- 1420 みな【じふぶんにたべましたれど<くらふて飽《あき》たり】 十二のかごに一《いつ》ばいそのあまりたる屑《くづ》をひろへ【ました<り】
- 1421 をんなと子《こ》どものほか 【たべましたる<くらひし】 ものはおよそ五千人【ありました<なりし】
- 1422 やがて耶穌人ノゝをかへすうちに だしをしひて舟《ふね》にのせ むかふのきしへさきにわたら【せました<しめたり】
- 1423 しかして人ノゝをかへしたまひ【しより<ければ】 いのらんとてひとりにて山に【のぼりました<のぼれり】 日くれてひとりそこに【をりました<いませり】
- 1424 舟《ふね》は海中《かいちう》にて逆風《ぎやくふう》のために浪《なみ》にたゞよはされ【てをります<くたり】
- 1425 夜《よ》七時《なゝつとぎ [どき]》ごろ耶穌うみのうへをあゆみてでしにいたれり
- 1426 だしそのうみのうへをあゆむを見《み》 おどろきてこれ變化《へんぐゑん》のものなりといひ おそるゝによりてさげびたり
- 1427 やか [が] て耶穌かれらにかたりていひけるは こゝろやすかれ われなり おそるゝなかれ

- 1428 ペテロこたへていひけるは 主《しゆ》よ もしあなたならばわれに命《めい》じて あなたへ水《みづ》のうへを【ゆかせくゆかしめ】たまへ
- 1429 きたれといひければ ペテロふねよりくだり 耶穌にいらんとて波《なみ》のうへをあゆみしに
- 1430 風《かぜ》のはけ[げ] しきをみておそれ しづみかゝりければさけびて 主《しゆ》 われをたすけたまへといへ【ましたくり】
- 1431 耶穌やがて手をのべ これをとらへていひけるは 信《しん》ずるのうすきものよ
- 1432 なんぞうたがふや かれら舟《ふね》にのりければ風《かぜ》しづまれり
- 1433 舟《ふね》にをりしものきたり これをはいして まことにあなたは神の子《こ》なりといへ【ましたくり】
- 1434 すなはちわたりてゲネサレの地《ち》に【つきましたくいたれり】
- 1435 そのところに人々\ 耶穌をしりて そのところの四方《しほう》に人をつかはし すべて病《【びやうきのくやめる】》ものを【つれてくたづさへ】【きましたくきたれり】
- 1436 たゞ耶穌の衣《ころも》のすそにさはることをねがへ【ましたくり】 すなはちさはる【□の】ものはみな【なほされましたくいやされたり】

●第十五章●

- 1501 ときにエロソルマのがくしやとパリサイの人と耶穌にきたりていひけるは
- 1502 あなたの門徒《でし》はいにしへの人のつたへをおかすはなんぞや そは食《しよく》するときにその手《て》をあらはざればなり
- 1503 こたへてかれらにいひけるは 汝らはまた汝らのつたへによりて神のいましめをおかすはなんぞや
- 1504 それ神いましめて父母をうやまへ また父母をのゝしるものはころすべしとのたまへり
- 1505 されどもなんぢらいひけるは すべて人父母にむかひて あなたをやしなふべきものはそなへものなりといひて
- 1506 すなはち父母をうやまはずともよしとす かくて汝らはつたへにより神のおきてをむなしく【いたすくせり】
- 1507 偽善《ぎぜん》しやよ エザヤはよく汝らについて預言《よげん》をしていひけるは
- 1508 この民《たみ》は口《くち》にてわれにちかづき 唇《くちさき》にてわれをうやまへども そのこゝろはわれにとほざかり
- 1509 人のいましめををしへとなして いたづらにわれを拜《はい》すと
- 1510 耶穌人々\ をよびてかれらにいひけるは きゝてきとれよ
- 1511 くちにいるゝものは人をけがさず くちよりいづるものはこれこそ人をけなすなれ
- 1512 こゝにでききたりて耶穌にいひけるは パリサイの人このことばをきゝてつまつかるゝを

しりたまへるか

1513 こたへていひけるは わが天《てん》の父がうゑざるものはみなぬかるべし かれらをすて
おけ めくらの手《て》びきするめくらなり

1514 もしめくらがめくらを手《て》ひきせば ふたりともにみぞに【おちますくおつべし】

1515 ペテロ耶穌にこたへていひけるは このたとへをわれらにときたまへ

1516 耶穌いひけるは 汝らもいまださとらざるか

1517 すべてくちにいるものは腹《はら》をとほりて厠《かはや》におとさるゝをいまだしらざ
るか

1518 くちよりいづるものはこゝろよりいづ これ人をけがすものなり

1519 いかにとなればこゝろよりいづる悪念《あくねん》凶殺《ひとごろし》姦淫《かんいん》
好色《こうしよく》攘竊《ぬすみ》妄《いつはり》謗《そしり》

1520 これらは人をけがすものなり されども手《て》をあらはずして食《くら》ふは人をけが
さず

1521 耶穌こゝをさりてタイロとシドンの土地《とち》に【ゆきましたくゆけり】

1522 みよ その土地《とち》のカナ、ヤのをんないで かれによばりていひけるは 主《しゆ》
よ ダビデのすゑ われをあはれみたまへ わがむすめきびしく鬼《おに》につかれたり

1523 耶穌一言《ひとこと》もかれにこたへざりしかば そのでしきたりこふていひけるは かれ
らのあとよりよばるゆゑに これをさらせたまへ

1524 こたへていひけるは イスラエルの家《いへ》のまよひし羊《ひつじ》のほかにかれはつ
かはされず

1525 をんなきたりてこれを拜《はい》していひけるは 主《しゆ》よ われをたすけたまへ

1526 こたへていひけるは 子《こ》どものばんをとりて犬《いぬ》になぐるはよからず

1527 をんな 主《しゆ》よ さなりといふ されどいぬもその主《しゆ》の膳《ぜん》よりおち
たる屑《くづ》をくらふといへ【ましたくり】

1528 耶穌こたへていひけるは をんなよ 汝の信仰《しんかう》はおほひなり ねか [が] ふご
とく汝に【なりますくなるべし】 すなはちそのむすめこのときより【なほりましたくいえたり】

1529 耶穌こゝをさりてガリラヤの海《うみ》べにそふて山にのぼりて坐《ざ》せり

1530 おほくの人々、あしなへ めしひ 暗《おし》かたわ またさま、のやまひあるものを【つ
れてくともなひ】 【きましたくきたり】 耶穌のあしもとにおきしかば すなはちこれをいやし
たまへり

1531 こゝにおいて暗《おし》はものいひ かたわは【なほりくいえ】 あしなへはあゆみ 目し
ひはみゆるを 人々、みてあやしみ イスラエルの神をあがめ【ましたくたり】

1532 耶穌そのでしをよびていひけるは 人々、すでに三日《みつか》われとともにゐてくらふ
ものなきゆゑにかれらをあはれみ おそらくは途中《とちう》にて【なやむくなやまん】とて か

- れら【の はらの へりしまま<を飢《うや》して】【かへすくさらす】ことをこのま
 1533 そのでしかれにいひけるは 野《の》にていづこよりかくおほくの人にあかさんほどのば
 ん【がありましようか<をえんや】
 1534 耶穌かれらにいひけるは ぱんいくつあるや こたへけるは 七《なゝつ》とちひさき魚《う
 を》すこしあり
 1535 地《ち》にすはれと人 / [ノ] \ に命《めい》じて
 1536 ぱんと魚《うを》をとり 謝《しや》してこれをわりでしにあたへ だしはひとノ\ にあた
 へ【ましたくり】
 1537 みな【し [じ] ふぶんにたべましてくらふて飽《あき》たり】 【その】あまりのくづ
 を七《なゝつ》のかごに【一は [ば] いづつくみつるほど】ひろへ【ましたくり】
 1538 食《くらひ》しものはをんなと子《こ》どものほかに四千人なり
 1539 耶穌人ノ\ を【かへらせくさらしめ】て舟《ふね》に【のりてくのぼり】マグダラのさか
 ひに【ゆきましたくいたれり】

●第十六章●

- 1601 パリサイとサドカイの人きたり耶穌をこゝろみて 天《てん》のしるしをかれらにみせよ
 とこふ
 1602 かれらにこたへていひけるは 日くるゝときに汝ら ゆふやけによつてよき天氣《てんき》
 ならんといふ
 1603 朝《あさ》はあさやけまたくもりによりて けふは嵐《あらし》ならんといふ 偽善者《ぎ
 ぜんしや》よ そらのけしきをわかつをしりて ときのしるしをわかつことあたはざるか
 1604 姦悪《かんあく》なる世《よ》はしるしをもとむれども 預言者《よげんしや》ヨナのし
 るしのほかしるしをこれにしめされず すなはちかれらをはなれて【ゆきましたくされり】
 1605 そのでしむかふのきしにいたりしに ぱんをたづさゆるをわすれたり
 1606 耶穌かれらにいひけるは パリサイとサドカイの人の麴《かうじ》をつゝしんでこゝろを
 つけよ
 1607 でしたがひに論《ろん》じていひけるは これぱんをたづさへざりしゆゑならん
 1608 耶穌これをしりていひけるは 信《しん》ずるのうすきものよ なんぞぱんをたづさへざり
 しをたがひに論《ろん》ずるや
 1609 いまださとらざるか 五千人に五《いつゝ》のぱんをあたへて いくかごひろひ
 1610 また四千人に七《なゝつ》のぱんをあたへて いくかごひろひしことをわすれたるか
 1611 パリサイとサドカイの人のかうじをつゝしめといひしは ぱんにつきていひしにあらざる
 をいかにさとらざるや
 1612 こゝにおいて できかうじをつゝしむにあらず パリサイとサドカイの人のをしへをつゝ

しめとかたりしをさとれり

1613 耶穌ピリツポのカイサリヤのかたにいたりて そのでしにとふていひけるは 人ノは人の子《こ》をたれといふや

1614 かれらいひけるは ある人は洗禮《せんれい》をなすヨハンネ ある人はエリヤ又《また》エレミヤ あるひは預言者《よげんしや》のひとりなりといへり

1615 かれらにいひけるは 汝らわれをたれといふや

1616 シモン ペテロこたへていひけるは あなたはキリスト いける神の子《こ》なり

1617 耶穌こたへてかれにいひけるは シモン ヨナの子《こ》 汝はさいはひなり いかになればそれ血肉《けつにく》汝にしめすにあらず 天にましますわが父なり

1618 われまた汝につげん 汝はペテロなり わが集會《しうくわい》をこの石《いし》のうへにたつべし 黄泉《よみ》の門《もん》はこれにかつべからず

1619 またわれ天國《てんこく》の鑰《かぎ》を汝にあたふ 汝が地《ち》にさだむることは天にさだめられ また汝が地《ち》にときしことは天にとかるべし

1620 こゝにおいてでしに われは キリストなる耶穌と人につぐるをいましめたまへ【ましたくり】

1621 このときより耶穌はじめてそのでしに われかならずエロソルマにゆきて 長老《としより》祭司《さいし》のをさがくしやよりおほくのくるしみをうけ且《かつ》ころされ 三日《みつか》めによみがへることをしめしたまへ【ましたくり】

1622 ペテロ耶穌をおさへていさめいひいでけるは 主《しゆ》よ あなたにあはれみあらせたまへ これあなたにしかるべからず

1623 耶穌ふりかへりてペテロにいひけるは サタナよ わがうしろへのけ 汝はわれにつまづくものなり それ汝は神のをおもはず かへつて人のことをおもふ

1624 このとき耶穌そのでしにいひけるは もしわれにしたがはんとおもふものは おのれをすてゝその十字架《じうじか》を【せほひく負《おほ》ひ】 われにしたがふべし

1625 いかになれば そのいのちをすくはんとおもふものはこれをうしなふべければなり またわがためにそのいのちをうしなふものはこれをうべし いかになれば

1626 もし人あまねく世界《せかい》をまうくるとも そのいのちをうしなはぶなんの益《えき》あらんや また人なにをもつてそのいのちにかへんや

1627 それ人の子《こ》その父の威光《いくわう》をもつて そのつかひたちとともにきたらんとす そのときそのおこなひによりておのノにむくふべし

1628 まことに汝らにつげん こゝにたつものうち 人の子《こ》その國《くに》にきたるをみるまで死《し》なざるものあるべし

●第十七章●

- 1701 六日《むいか》の後《のち》 耶穌ペテロ ヤコブまたその兄弟ヨハンネをとみなひ 人を
さけてたかき山にのぼりたまひて
- 1702 かれらのまへにおんすがたかはれり おん面《かほ》日《ひ》のごとくかゞやき おんころ
もひかりのごとくしろく【なりましたくなれり】
- 1703 みよ モーセとエリヤ耶穌とともにかたりて かれらにあらはれ【ましたくたり】
- 1704 ペテロこたへて耶穌にいひけるは 主《しゆ》よ われらこゝにあるはよし みこゝろにかな
はゞ われらにひとつは主《しゆ》のため ひとつはモーセのため ひとつはエリヤのために三
《みつ》のいほりをこゝにつくらせたまへと
- 1705 かくいふほどに みよ かゞやきたる雲《くも》かれらをおほひぬ みよ 雲《くも》よりこ
ゑありていひけるは これはわが心《こゝろ》にかなふわが愛子《あいし》なり 汝らこれにき
くべしと
- 1706 でしこれを聞《きゝ》 うつむきにたをれ おほひにおそれし
- 1707 耶穌きたりてかれらにさはりて おきよ おそるゝなどいひければ
- 1708 その目をあぐるに たゞ耶穌のほかひとりも見《み》ず
- 1709 山をくだるほどに耶穌かれらに命《めい》じて 人の子《こ》よみがへるまで汝らのみし
ことを人につぐべからずといへり
- 1710 そのでしとふていひけるは さらばなんぞ學者《がくしや》はエリヤさきにきたるべしと
いふや
- 1711 耶穌こたへていひけるは 實《じつ》にエリヤはさきにきたりて萬事《ばんし [じ]》を
あらたむべし
- 1712 かししながらわれ汝らにつげん エリヤはもはやきたりしに 人これをしらずしてたゞお
もふまゝをこれに【いたしますくなせり】 また人の子《こ》もおなじく人よりくるしめられ【ま
しようくとす】
- 1713 こゝにおいてでし洗禮《せんれい》をなすヨハンネをさしていはれしを【さとりまいした
くさとれり】
- 1714 かれらはおほくの人ノゝにきたるに ある人耶穌にきたり膝《ひざ》まづいて
- 1715 いひけるは 主《しゆ》よ わが子《こ》をあはれみたまへ いかにならばてんかんにて
をりノ火《ひ》にも水《みづ》にもたをれて はなはだ【くるしみますくくるしめり】
- 1716 これをあなたのでしにつれゆけども いやすことあたはず
- 1717 耶穌こたへて あゝ 信《しん》なきひか [が] みたる世《よ》ぞ いつまでわれなんぢら
とともにをらんや いつまでわれ汝らをしのばんや
- 1718 われにそれをつれきたれといへり 耶穌鬼《おに》をいましめたまへり すなはち鬼《おに》
かれより【はなれてくいでゝ】 その子《こ》このときより【なほりましたくいえたり】
- 1719 そのときでしひそかに耶穌にきたりいひけるは われらそれをおひいだすことあたはざる

はなんぞや

1720 耶穌かれらにいひけるは 汝ら信《しん》なきゆゑなり いかにとなればまことに汝らにつげん もし芥子《からし》だねほどの信《しん》ずることあらば この山にこゝよりかしこへうつれといふともうつるべし また汝らにあたはざることなかるべし

1721 しかしながらこのたぐひはいのりと断食《だんじき》にあらざれば【はなれるくいづる】ことなし

1722 ガリラヤをめぐる時 耶穌でしに 人の子《こ》人の手《て》にわたされんとす

1723 ころされて三日《みつか》めによみがへるべしといひければ ではなはだかなしめり

1724 カペナオムにきたるとき みつぎをうけとるものどもペテロにきたりていひけるは 汝らの師《し》も奉納金《ほうなうきん》をおさめざるか

1725 しからずといひてペテロ家《いへ》にいりしとき 耶穌まづかれにいひけるは シモン 汝はいかにおもふや 世界《せかい》の王《わう》たちは運上《うんじやう》や【ひとのうんし [じ] やうく人税《にんぜい》】をたれよりとるや おのれの子《こ》どもよりか またほかのものよりか

1726 ペテロかれにいひけるは ほかの人よりとる 耶穌かれにいひけるは さらば子《こ》どもは自由《じゆう》なり

1727 しかしながらかれらをつまづかせざるために なんぢ海《うみ》にゆきて鉤《へり》をたれ さきにつる魚《うを》をとりてそのくちをひらかば 金《かね》ひとつをうべし これをとりてわれと汝のためにかれらにおさめよ

●第十八章●

1801 そのときでし耶穌にきたりていひけるは 天國《てんこく》にておほひなるものはたれぞや

1802 耶穌おさな子《ご》をよび かれらのうちに

1803 たてゝいひけるは まことに汝らにつげん もしあらたまりておさなごのごとくなら【ざればくずんば】 天國《てんこく》にいることをえず

1804 ゆゑにすべてこのおさなごのごとくおのれをへりくだるものは これこそ天國《てんこく》においておほひなるものなれ

1805 またわが名のためにかくのごときひとりのおさなごをうくるものは われをうくるなり

1806 しかしながらわれを信《しん》ずるひとりのこのちいさきものをつまづかすものは ひき臼《うす》をくびにかけて海《うみ》のふかみにしづめらることこそ このものに益《えき》ならめ

1807 つまづかすることはこの世《よ》のわざはひなるかな つまづかすは余義《よぎ》なければなり さりながらつまづかす人にわざはひはかゝるべし

- 1808 もし汝の手《て》または足《あし》おのれをつまづかするならば これをきつてなげすてよ 両手《りやうて》両足《りやうあし》ありてつきざる火《ひ》になげいれられんより あしなへまたはかたわにて生《いのち》にいるはよし
- 1809 もし汝の眼《め》おのれをつまづかするならば これをぬきいだしてなげすてよ 両目《りやうめ》ありて地《ぢ》ごくの火《ひ》になげいれられんより かためにていのちにいるはよし
- 1810 汝らこのちいさきひとりのものをあなどらざるやうにつゝしめ それ汝らにつげん 天《てん》にありてその使《つかひ》は天《てん》にましますわが父《ちゝ》のかほをつねにみればなり
- 1811 それ人の子ほろびたるものをすくはんためにきたればなり
- 1812 汝らいかにおもふや もし人百ひきの羊《ひつじ》をもちてその一疋《いつひき》まよはゞ九十九を山にのこし ゆきてまよひしひとつをたつ [づ] ね【ましようくざるか】
- 1813 もしこれにあはゞ まことに汝につげん まよはざる九十九のものよりなほそのひとつのものをよろこばん
- 1814 かくのこ [ご] ときこのちいさきものゝひとりほろぶるは 天《てん》にまします汝らの父のみこゝろにあらず
- 1815 さればもし兄弟汝につみをおかさば ゆきて汝とかれのみありていさめよ もし汝のことばをきかは [ば] 兄弟を挽回《ひきかへす?》べし
- 1816 もしきかずんば 二三の證據《しやうこ》人のことばによつてすべていふことをさだめんために ほかにひとりふたりをつれゆくべし
- 1817 もしかれらをもきかずんば 公會《こうくわい》につげよ
- 1818[1817(続)] また公會にてもきかずんば かれを異邦人《いほうじん》みつぎとりのごときものとせよ
- 1818 まことに汝らにつげん およそ汝らが地《ち》にむすぶことは天《てん》にむすばれん およそ汝らが地《ち》にとくことは天《てん》にとかれん
- 1819 また汝らにつげん もし汝らふたり地にてなにごとにてもひとしくもとめば 天《てん》にましますわが父よりかれらになさるべし
- 1820 それわが名《な》によりて二人三人あつまりたるところには われもそのうちにあればなり
- 1821 そのときペテロ耶穌にきたりていひけるは 主《しゆ》よ わが兄弟われにつみをおかしてゆるすべきはいくたびまでぞ 七《なゝ》たびまでか
- 1822 耶穌かれにいひけるは 汝になゝたびまでといはず 七《なゝ》たびを七十倍《ひちじうばい》までといふなり
- 1823 このゆゑに天國《てんこく》は家來《けらい》の勘定《くわんでう》をあらためんとほつする王《わう》たる人にたとへられたり

- 1824 あらためはじむれば 千萬金《せんまんきん》のひきおひしたるものを王《わう》にひききたりしに
- 1825 つくなふところなきによりて その君《きみ》その家來《けらい》とまた妻子《さいし》あらゆるもちものをみなうりてつくのへと命《めい》じたり
- 1826 ゆゑに家來《けらい》ひれふしていひけるは 君《きみ》われをあはれみたまはゞみなつくなふべし
- 1827 しかるときその家來《けらい》の君《きみ》あはれみてこれをとき そのひきおひをゆるせり
- 1828 その家來いでゝおのれに百目《ひやくめ》のひきおひしたる友《とも》にあひければ これをとらへ【むなぐらく咽《のんど》】をとり ひきおひをかへせといひければ
- 1829 その友《とも》あしもとに【ひれ】ふしてこれにねがふていひけるは われをあはれみたまはゞみなつくなふべしと
- 1830 されどかれ【ききいれくうけがは】ずしてゆき ひきおひをつくなふまでこれをひとやにいれたり
- 1831 さればほかの友《とも》その【ごとくせしくなせし】ことをみてはなはだかなしみ ゆきて【いたせしくなせし】ことをみなその君《きみ》にしらせたり
- 1832 こゝにおいて君《きみ》これをよびていひけるは あしき家來《けらい》なるかな 汝はわれにねがひしときに われ汝のひきおひをみなゆるしたり
- 1833 われ汝をあはれむこ〔ご〕とく 汝もまた友《とも》をあはれむべきことならずやと
- 1834 その君《きみ》いかりてひきおひをみなつくなふまでかれをひとや人《びと》にわたせり

●第十九章●

- 1901 耶穌このことをいひおはりしとき ガリラヤをさりてヨルダンのむかふユダヤのさかひに【ゆきくいたり】けるに
- 1902 おほくの人々かれにしたがひ【ましたればくしかば】 【そのところくそこ】にてこれらを【なほしくいやし】たまへり
- 1903 パリサイの人きたりて耶穌をこゝろみいひけるは 人《ひと》なにのわけにてもその妻《つま》をいだすはよきや
- 1904 こたへてかれらにいひけるは 元始《はし〔じ〕め》より人をつくりしもの これを男女《なんによ》につくりたまひし
- 1905 このゆゑに人父母をはなれてその妻《つま》にそひ 二人《ふたり》のもの一體《いつたい》となるべしといひしことをいまだよまざるか
- 1906 さればはやふたつにあらて〔で〕一體《いつたい》なり ゆゑに神のあはせしものを人はなすべからず

- 1907 耶穌にいひけるは しからばモーセは離縁状《りゑんじやう》をあたへて妻《つま》をい
だすべしと命《めい》じたるはなんぞや
- 1908 かれらにいひけるは モーセは汝らのこゝろのつれなきによつて 妻《つま》をいだすこと
をゆるせり されどはじめはかくのごとくあらざりし
- 1909 われ汝らにつげん たれにても淫事《いんじ》のゆゑならずしてその妻《つま》をいだし ほか
の婦《ふ》をめとるものは姦淫《かんいん》するなり またいだされたる女《をんな》をめと
るものも姦淫するなり
- 1910 そのでし耶穌にいひけるは もし人つまにおいてかくのごとくならば めとらざるにしか
ず
- 1911 かれらにいひけるは さづけられたるものにあらざれば 人みなそのことばをきゝいるゝ
ことあたはず
- 1912 それ母《はは》のはらよりうまれつきたる寺人《じじん》あり また人より寺人《じじん》
にされたるもの また天國《てんこく》のためにおのれより寺人になりたるものあり よくきゝ
【いれるゝいるゝ】ものはこれをきゝ 【いれるか [が] よいゝいるべし】
- 1913 そのとき手《て》をつけていのらんために耶穌につれきたるおさな子《ご》あり 門徒《で
し》これをとゞめたり
- 1914 耶穌いひけるは おさなごをゆるしてわれにきたるを【とと [ど] めるゝきんずる】 【こ
と】なかれ それ天國《てんこく》のものは【そのゝかくの】 【とほりのゝごとき】ものなれば
なり
- 1915 すなはちこれに手《て》をつけて そのところを【たちましたゝさりぬ】
- 1916 みよ あるものきたりてかれにいひけるは よきかな 師《し》や われかぎりなきいのちを
えんために なにのよきことをなすべきや
- 1917 かれにいひけるは われをよきといふはなんぞや ひとりの神のほかにはよきものあらず
もしいのちにいらんとほつせば いましめをまもるべし
- 1918 耶穌にいひけるは なにぞや 耶穌いひけるは ころすべからず 姦淫《かんいん》すべから
ず ぬすむべからず いつはりの證據《しやうこ》をたつべからず
- 1919 父母をうやまへ またおのれのごとく隣《となり》のものをいつくしむべし
- 1920 わかきものかれにいひけるは このことはわれいとけなきよりみなまもれり われなほな
ににかけたることありや
- 1921 耶穌かれにいひけるは もしよきをつくさんと【おもはばゝほつせば】 ゆきて汝が所持《し
よぢ》のものをうりてまづしきものにほと [ど] こせ すなはち天《てん》に財《たから》をも
つべし 且《かつ》きたりてわれにしたがへ
- 1922 わかきものそのいふことをきゝ うれひてさりぬ それかれはおほひなる身上《しんしや
う》なればなり

- 1923 耶穌そのでしにいひけるは まことに汝らにつげん 富《とめる》ものは天國《てんこく》にいること【むつかしくあるくかたし】
- 1924 また汝らにつげん【くめんのよきくとめる】ものゝ神の國《くに》にいるよりも 駱駝《らくだ》針《はり》の孔《あな》をとほることはなほやすきなり
- 1925 でしこれをきゝ はなはた[だ]おどろきていひけるは しからばすくはるゝものはたれぞや
- 1926 耶穌かれらをみていひけるは これ人間《にんげん》にはあたはざることにて 神にあたはざるところなし
- 1927 ペテロこたへて耶穌にいひけるは みよ われらはすべてをすてゝ貴君《あなた》にしたがへ【ましたくり】 なにをうべきか
- 1928 耶穌かれらにいひけるは まことに汝らにつげん われにしたがひし汝らは世《よ》のあらたまるときに人の子《こ》そのたつときくらゐにざし 汝らもまたイスラエルの十二の支流《わかれ》を支配《しはい》して十二のくらゐにざすべし
- 1929 わが名《な》のために家《いへ》あるひは兄弟あるひは姉妹《しまい》あるひは父あるひは母或《あるひ》は妻《つま》或《あるひ》は子《こ》あるひは田《た》はたをすてしものは百倍《ひやくばい》をうけ 且《かつ》かぎりなきいのちを【うけますくつぐべし】

●第二十章●

- 2001 それ天國《てんこく》は朝《あさ》はやく葡萄《ぶどう》ばたけにはたらくものをやとひにいでたる主人《あるじ》に似《に》たり
- 2002 はたらくものには一日《いちにち》に金《きん》ひとつを【はらふべしくあたへん】と約束《やくそく》してこれらを葡《ぶ》どうばたけにつかは【しましたくせり】
- 2003 また九字《いつゝはん》ごろいでゝ まちにひま【らしくくにて】たち【てゐ】たるものをみて
- 2004 かれらに 汝らもまた葡《ぶ》どうばたけにゆけ 相當《さうとう》の【ちんせんくあたひ】を【はらふべしくあたへん】といひければ これまたゆけり
- 2005 また十二字《こゝのつどき》と三字《やつはん》ごろいでゝ まへのごとく【いたしましたくなせり】
- 2006 五字《なゝつはん》ごろいでゝ ほかにひまにてたちたるものにあひ【まして】かれらにいひけるは 終日《しゅうじつ》ひまにてこゝにたつ【てゐる】はなんぞや
- 2007 かれらにいひけるは われらをやとふものなきゆゑなりと かれらに【こたへくいひ】けるは 汝もまた葡《ぶ》どうばたけにゆきて相當《さうとう》の【ちんく價《あたひ》】を【とるくう】べし
- 2008 日《ひ》くれにぶどうばたけのあるじその家《いへ》のをさにいひけるは はたらくもの

どもをよびて 後のものをはじめとしてさきなるものまでこれに【ちんくあたへ】をはらふべしと【頭注：あたひ／あるひは／ちん／ちんせん／ねだん】

2009 五字《なゝつはん》ごろにやとはれしものどもきたりて 金《きん》ひとつづゝを【うけとりましたくうけたり】

2010 はじめのものどもきたりて われらはおほく【うけとるくうくる】【であらうくならん】とおもひ【ま】し【た】に また金《きん》ひとつをうけ【とりくたり】

2011 これをうけ【とり】であるじにつぶやきていひけるは

2012 このあとものは一時《ひとゝき》ばかりはたらきしに 終日《しうじつ》の苦勞《くろう》と暑《あつさ》にあひ【ましたくたる】われらと【おなじやうにくひとしく】【はらひくこれ】を【しますかとくなせり】

2013 そのひとりにこたへていひけるは 友《とも》【だち】よ われ汝に無理《むり》をなさずわれと金《きん》ひとつのやくそくを【いたしましたではないかくなさゞりしや】

2014 汝のものを【うけ】とりて【ゆくがよいくゆけ】われまた汝のごとくこのあとのもの【へくに】も【はらひますくあたふべし】

2015 わがものをもつておもふごとくに【いたすくなす】は【よいではなきかくよからずや】われよきによつて汝の眼《め》【あしくあるくあしき】か

2016 かくのごとくあとのものはさきになり さきものはあとになるべし それよばるゝものはおほしといへども 撰《ゑらま》るゝものはすくなし

2017 耶穌エロソルマにのぼるとき 途中《とちう》にて人をさけて 十二でしをとまなひかれらにいひけるは

2018 みよ われらエロソルマにのぼり 人の子《こ》祭司《さいし》のをさとがくしやにわたされて かれらこれを死罪《しざい》にさだめ

2019 なぶりむちうち 十字架《じうじか》につけんために異國人《いこくじん》にわたされ【ますくん】 また三日《みつか》めによみがへるべし

2020 そのときゼバダイの子《こ》たちの母《はゝ》その子《こ》たちとともに耶穌にきたり 拜《はい》してかれにもとむることあり

2021 耶穌かれにいひけるは なにをほつするや かれにいひけるは このふたりのわが子《こ》をあなたの國《くに》において 一人《ひとり》はあなたの右 一人《ひとり》は左に坐《ざ》することをねがふ

2022 耶穌こたへていひけるは 汝らはねがふところをしらず 汝らはわがのまんとするさかづきをのみ またわがうけんとする洗禮《せんれい》を【うけるくうくべき】や かれら耶穌にいひけるは 【きつとくよく】【いたしますくすべし】

2023 耶穌かれらにいひけるは 汝らじつにわがさかづきをのみ またわが【うけるくうくる】洗禮《せんれい》を【うけなされくうくべし】 しかしながらわが右左《みぎひ [ひ] だり》に坐

《ざ》することはわれよりあたゆるにあらず たゞわが父よりゑらまれたるものにあたへらるべし

2024 十人のでしこれをきゝて ふたりの兄弟【にたいしてくを】【はらをたちましたくいきどほれり】

2025 耶穌かれらをよびていひけるは 異邦《いほう》の領主《れうし [ゆ]》はその民《たみ》をつかさどり 大《おほひ》なるものどもは權《けん》をもつてかれらを支配《しはい》す

2026 しかしながら汝らのうちはさにあらじ 汝らのうち【おほきくくおほひ】ならんと【おもふくほつする】ものは 汝らのつかふものとなるべし

2027 また汝らのうち首《かしら》にならんと【おもふくほつする】ものは汝らのしもべとなるべし

2028 人の子《こ》も人をつかふためにあらず かへつて人につかはれ またその生命《せいめい》をすてゝおほくの人にかはりて【つくのはんくあがなはん】ために きた【ゆくれ】るがごとし

2029 かれらエリコをいでたるとき おほくの人ノ、耶穌にしたがへ【ましたくり】

2030 さて みよ みちのほとりにすはりたるふたりの【目《め》くらく目《め》しひ】 耶穌の【とほるくすぐる】ときゝさけびていひけるは 主《しゆ》や ダビデの子《こ》 われらをあはれみたまへ

2031 人ノ、【だまれくだまるべし】とかれらを【すこししかりましたくいませたり】 されどもなほ【おほごゑくおほひ】に【よばはりくさけんで】いひけるは 主《しゆ》や ダビデの子《こ》 われらをあはれみたまへ

2032 耶穌たゞみこれをよびていひけるは われ汝らになにをなさんとねがふや

2033 耶穌にいひけるは 主《しゆ》や われらの目のひらかんことをねがふ

2034 耶穌おもひやりてその目に手《て》をつけしに すなはちその目ひらきければ 耶穌にしたがへ【ましたくり】

●第二十一章●

2101 さてエロソルマにちかづき橄欖山《かんらんざん》のベツパゲにいたるとき 耶穌ふたりのでしをつかはして

2102 かれらにいひけるは 汝らの對《むかへ》るむらにゆけよ つなげる驢馬《ろば》とその子《こ》のともにあるにやがてあはん それをときてわれにひききたれ

2103 もし汝になにとかいふものあらば 主《しゆ》の入用《【いりやうくにうやう】》なりといふべし さすればたゞちにこれをつかはすべし

2104 よけ [げ] んしやのことばに みよ 汝の王《わう》 柔和《にうわ》にして驢馬《ろば》の子《こ》にのり 汝にきたるとシヨンの女《むすめ》につげよと

2105 いひしにかなふやうに【このとほりくかく】【なされましたくなれり】

- 2106 門徒《でし》ゆきて耶穌の命《めい》ぜしごとくなし
- 2107 驢馬《ろば》とその子をひききたり おのれがころもをそのうへにおき 耶穌をこれに【の
らせましたくのらしむ】
- 2108 人ノ\おほくその衣《ころも》をみちにしき あるひは樹《き》のえだをきりてみちにし
き
- 2109 且《かつ》まへにたち あとにしたがふ人ノ\よびていひけるは ダビデの子《こ》 ホザ
ナよ 主《しゆ》の名によりてきたるものは讚美《ほまる》べし いたつてたかきところにホザ
ナよ
- 2110 耶穌エロソルマにいるとき城下《みやこ》こぞりてさはだちいひけるは これはたれぞや
- 2111 人ノ\これはガリラヤ ナザレのよげんしや耶穌なりと【まうしましたくいへり】
- 2112 耶穌神の殿《みや》にいり 殿のうちに賣買《うりかい》するものをおひ出《いだ》し 兌
銀者《りやうがへや》の臺《だい》また鴿《はと》をうるものゝこしかけをたをし
- 2113 かれらにいひけるは わが家《いへ》は祈禱《いのり》のいへととなへらるべしとするさ
れたり しかるを汝らこれを盜賊《とうぞく》の巢《す》となせり
- 2114 警者《めしひ》あしなへの人ノ\殿《みや》に耶穌にきたれば かれらを【なほしました
くいやせり】
- 2115 祭司《さいし》のをさたちと士子《がくしや》たちそのなせしふしぎなること また童子
《こども》の殿《みや》にてよばりて ダビデの子《こ》ホザナよといふを見《み》ていかり
をふくみて
- 2116 耶穌にいひけるは これらのいふところをきくや 耶穌かれらにいひけるは しかり をさ
なごまた乳哺《ちのみご》の口《くち》よりほむるをそなへしとするされしをいまだよまざる
か
- 2117 すなはちこれらをはなれ城下《みやこ》をいで ベタニヤにゆきそこにやどれり
- 2118 翌朝《よくあさ》城下《みやこ》にかへるとき飢《うえ》ければ
- 2119 道《みち》のほとりにひとつの無花果《いちじく》の樹《き》を見てこゝにきたるに 葉
《は》のみにて樹《き》になにもみえざりければ いまよりのちいつまでも果《み》をむすぶこ
とかなふまじと樹《き》にいひければ 無花果《いちじく》たちどころに【かれましたくかれぬ】
- 2120 門徒《でし》見てあやしみいひけるは いちじくのかれしことはいかにもすみやかなり
- 2121 耶穌こたへてかれらにいひけるは まことに汝らにつげん もし信《しん》ありてうたがは
ずんば このいちじくにおけるがごときのみならず この山にうつり海《うみ》に【はいれくい
れ】といふとも【そう】【なりますくなるべし】
- 2122 且《かつ》汝ら祈禱《いのり》ときに信《しん》じてねがはゞ 【と [ど] んなことにて
もくことノ\く】【て [で] きましようく得《う》べし】
- 2123 耶穌殿《みや》にいりてをしゆるとき 祭司《さいし》のをさたちおよび民《たみ》の長

- 老《としより》などきたりていひけるは なにの權威《けんい》をも【ち】てこのことをするや
たれがこのけんいを汝にあたへたるか
- 2124 耶穌こたへてかれらにいひけるは われも一言《ひとこと》汝らにとはん われにそのこと
をつぐるならば われもなにのけんいをもつてこれをなすといふことを汝らにいはん
- 2125 ヨハンネの洗禮《せんれい》はいづれよりぞや 天《てん》よりか人よりか かれらたがひ
に論《ろん》じていひけるは もし天《てん》よりといはゞ さらばなんぞこれを信《しん》ぜ
ぬやといはん
- 2126 もし人よりといはゞわれら民《たみ》をおそる これみなヨハンネをよげんしやとおもへ
【ますくば】なり
- 2127 すなはち耶穌にこたへて しらずと【もうしましたくいへり】 耶穌かれらにいひけるは わ
れもなにの權威《けんい》をもつてこれをなすを汝らにかたらず
- 2128 汝らいかゞおもふや ある人子《こ》ふたりありしが 長子《あに》にきたりていひけるは
子や 今日《けふ》わが葡萄《ぶどう》ばたけにゆきてはたらけよ
- 2129 こたへて われは【ゆきたくないくほつせず [ず]】と【もうしましたくいひし】が のち
にくひて【ゆきましたくゆきし】
- 2130 また弟にもまへのごとくいひけるにこたへて 主《しゆ》 われゆくべしといひ【ましたれ
くしか】ども ゆか【なかつたくざりし】
- 2131 このふたりのもの【どちらくいづれ】が父の【こころもちにかなふやうにくむねを】【い
たしましたくなせしや】かれら【いひまするにくいひける】は 兄なり 耶穌かれらにいひけ
るは まことに汝らにつげん 税吏《みつぎとり》およびあそび女《め》は汝らより先《さき》
に神の國《くに》に【はいるくいる】いるべし
- 2132 これヨハンネはたゞしき道《みち》より汝らにきたりしに これを信《しん》ぜず みつぎ
とりおよびあそび女《め》はこれを【信《しん》し [じ] ましたく信《しん》ぜり】汝らこれ
をみてもかれを信《しん》ずるやうに のちにくひあらため【ませんくざりし】
- 2133 またほかのたとへをきけ ある家《いへ》のあるじ葡萄《ぶ》どうばたけをうえ【かきねく
まがき】を【ゆひまはしくめぐらし】 そのうちに酒搾《さかぶね》をほり塔所《ものみ》をた
て 農夫《のうふ》にかして遠方《えんほう》へゆきしが
- 2134 果期《みのるとき》ちかづきければ その果《み》をとらんために農夫《のうふ》の【か
たくもと】へしもべをつかは【しましたくせり】
- 2135 農夫どもそのしもべをとらへ ひとりをむちうち ひとりをころし ひとりを石《いし》に
て【うちましたくうてり】
- 2136 またほかのしもべをまへよりもおほくつかはせしに 【これくかれ】らにもまへの【とほ
りにくごとく】【いたしましたくなせり】
- 2137 つひにはわが子《こ》をば うやまふ【ゆくなる】べしと【おもふくいひ】て その子《こ》

をかれらに【つかはしましたくつかはせしが】

2138 農夫《のうふ》どもその子《こ》を見てあひたがひにいひけるは これはあとつぎなり いでこれをころしてその畑地《【はたけくはたち】》をもとるべしと

2139 すなはちこれをとらへ 葡萄《ぶどう》ばたけよりおひいだして ころ【しましたくせり】

2140 ぶどうばたけのあるじ【きましたくきたらん】ときに その農夫《のうふ》になにを【いたしましろうくせんや】

2141 耶穌にいひけるは このはなはだしきものどもをはなはだしくうちほろぼして 葡萄《ぶどう》ばたけをみのるとき その果《み》をおさむるほかの農夫《のうふ》にかすべし

2142 耶穌かれらにいひけるは 聖書《せいしよ》に 家《いへ》つくりのすてたる石《いし》の屋《いへ》のすみの首石《おやいし》となる これ主《しゆ》のなしたまふことにして われらの目《め》にあやしむことなりとするされしをいまだよまざるや

2143 ゆゑにわれららにつげん 神の國《くに》は汝らより【うばひとりくうばゝれ】 その果《み》をむすぶ民《たみ》にあたへたまはるべし

2144 この石《いし》のうへにたをるゝものはくだかれ この石《いし》その上《うへ》におちなば そのものをおしつぶさん

2145 祭司《さいし》のをさたちおよびパリサイの人がかれのとへをきゝ おのれらをさして いへるをしりて

2146 耶穌をとらへんとほつすれども 人ノかれを預言《よげん》しやとするによりておそれ【ましたくしなり】

●第二十二章●

2201 耶穌またたとへをとりてかれらにこたへていひけるは

2202 天國《てんこく》はある王《わう》たる人その子《こ》のために婚禮《こんれい》をなすがごとし

2203 こんれいにまねきしものをむかへんためにそのしもべをつかはせども きたるをこのまず

2204 またほかのしもべをつかはしていひけるは みよ わがふるまひそなはり わが牛《うし》も肥《こえ》たる畜《けもの》もほふりてことノくそなはりたれば こんれいにきたるべしとまねきしものにいへ

2205 されどかれらかへりみずしてさり ひとりはおのれの畑《【はたけくはた】》にゆき ひとりはおのれの商賣《しやうばい》に【ゆきましたくゆけり】

2206 そのほかのものどもはしもべをとらへ はづかしめて【ころしましたくころせり】

2207 王《わう》これをきゝていかり 軍勢《ぐんぜい》をつかはしてそのころせしものをほろぼし またその邑《むら》を【焼きはらひましたく焼《やき》たり】

2208 そのときそのしもべにいひけるは ふるまひすでにそなはれども まねきしものは客《きや

く》とするにたらざるものなれば

2209 ちまたにゆき あふほどのものをふるまひにまねけよ

2210 そのしもべみちにいで よきものにもあしきものにもかゝはらず あふほどのものこと /
くあつめければ ふるまひの客《きやく》【はなはた [だ] おほくきましたく充滿《じうまん》
せり】

2211 王《わう》客をみんなとてきたりけるに そこにひとりの禮服《れいふく》を衣《き》ざる
人を見て

2212 友《とも》や いかんぞ禮服《れいふく》をきずしてこゝにいるやといひければ 黙然《も
くねん》たり

2213 ときに王《わう》しもべに かれの手足をしばりてそとの幽暗《くらき》になげいだせ そ
こにてかなしみまた齒《は》がみすることあるべしといへり

2214 それよばるゝものおほしといへども 忽らまるゝものすくなし

2215 そのときパリサイのいいで いかにしてかかれをいひあやまらせんとあひはかりて

2216 そのでしとヘロデのともがらをつかはしていはせけるは 師《し》や われらあなたはまこ
とあるものにしてまことに神のみちををしへ またたれにもよらざるをしれり これ人のかたち
を見ざればなり

2217 されば【ひとのうんし [じ] やうく人税《にんぜい》】をカヒサルにおさむるはよきやあ
しきや なんぢいかゞおもへるや われらにつげたまへ

2218 耶穌そのあしきをしりていへるは 偽善者《ぎぜんしや》よ なんぞわれをこゝろむるや

2219 人税《にんぜい》の金子をわれにみせよといひければ 銀錢《ぎんせん》ひとつを耶穌に
【もちてきましたくもちきたれり】

2220 かれらにいひけるは この像《ゑすがた》と號《しるし》はたれぞや

2221 カヒサル【ゆくの】なりとかれに【まうしましたくいへり】 すなはちかれらにいひける
は さらばカイサルのはカイサルにかへし また神のものは神にかへすべし

2222 かれらこれをきゝてあやしみ 耶穌をさけてされり

2223 その目によみがへることはなしといひならばすサドカイの人耶穌にきたり とふて

2224 いひけるは 師《し》よ モーセのいへるに 人子《こ》なくして死《し》ぬれば その兄弟
その妻《つま》をめとり子《こ》を生《うま》せ 兄弟のあとをたつべしと

2225 それわれらのなかに兄弟七人ありし 長《あに》なるものめとりて死《し》し 子《こ》な
ければそのつまを弟に【そはせましたくおくれり】

2226 【そのじなん そのさんなん そのしちなんくその二 その三 その七】までみな【そのあと
そのあとと そはせましたくしかせり】

2227 のちつひにをんなもまた【死《し》にましたがく死《し》せり】

2228 よみがへるときは七人のうちたれのつまとなるべきや これ【しちにんともにくみな】か

- れを【つまにいたしましたくめとりし】もの【でありますからくなればなり】
- 2229 耶穌こたへてかれらにいひけるは なんぢら聖書《せいしよ》をも神のちからをもしらざるによりて【あやまりましたくあやまれり】
- 2230 それよみがへるときは【よめにもゆかずよめもとらずく娶《めと》らず嫁《とつ》がず】神の天に【ありておつかひをなさるおかたくあるつかひたち】のごとし
- 2231 死《し》せしものゝよみがへることは 汝らに神の【おつげのくつげたまひし】【お】ことばに
- 2232 われはアブラハムの神 イサクの神 ヤコブの神なりとあるをいまだよまざるか そも / \ 神は死せしものゝ神にあらず 【いきてゐるくいける】ものゝ神なり
- 2233 人 / \ きゝてそのをしへにおどろき【ましたくたり】
- 2234 パリサイの人耶穌のサドカイの人を閉口《へいこう》【させるくさする】をきゝてひとつところにあつまりし【がくに】
- 2235 そのうち教法師《【をしへのししやうくきやうぼうし】》なるものひとり 耶穌をこゝろみんなめにとふていひけるは
- 2236 師《し》や おきてのうちおほひなるいましめは【なんであるくいづれ】ぞや
- 2237 耶穌かれにいひけるは 汝こゝろをつくし 精神《せいしん》をつくし 智恵《ちゑ》をつくし 【おまへがく汝の】【かみさまのく神なる】主《しゆ》を愛《あい》すべし
- 2238 これは第一にしておほひなるいましめなり
- 2239 第二もこれにおなじく すなはちわが身《み》のごとく汝の隣《となり》を愛《あい》すべし
- 2240 すべてのおきてまた預言《よげん》はこのふたつのいましめに【よりますくよれり】
- 2241 パリサイの人あつまりたる時 耶穌かれらに【とひまするにくとふていひけるは】
- 2242 汝らキリストについていかにおもふや たれの子《こ》なるや かれら耶穌にいひけるは ダビデの子《こ》なり
- 2243 かれらにいひけるは さらばダビデ聖靈《みたま》に感《かん》じてこれを主《しゆ》となゆるはいかんぞ ダビデのいひけるに
- 2244 主《しゆ》 わが主《しゆ》にいひけるは われ汝の衆敵《しうてき》を汝の足《あし》だいとすまでわが手《て》の右に【すはつてをるく坐《ざ》す】べしと
- 2245 さればダビデこれを主《しゆ》となへたれば いかゞしてその子《こ》にあるや
- 2246 ひとりでも一言《いちごん》も耶穌にこたゆる【こと】【かなはずくあたはず】して またその日よりもはやあへてかれにとふもの【なしくあらず】

●第二十三章●

- 2301 そのとき耶穌人 / \ とでしにつげていひけるは

- 2302 士子《がくしや》とパリサイの人はモーセの位《くらゐ》に【をるく坐《ざ》す】
- 2303 ゆゑにかれらすべて汝らにいふことをまもりておこなふべし されどかれらのおこなひの【とほりくごとく】なすことなかれ いかになればかれらは唱《とな》ふるのみにしておこなふこと【がありませんくなければなり】
- 2304 またかれらはおもくして【になひくかつぎ】がたき荷《に》を【つくりくくり】て人の肩《かた》にかつがすれども おのれはひとつの指《ゆび》にてこれをうごかすをこのまず
- 2305 かれらのおこなひはすべて人にみられんためにおこなひ その佩牘《まもりふだ》をはゞひろくし その衣《ころも》の裾《すそ》をおほきくし
- 2306 またふるまひの上座《しやうざ》 會堂《くわいどう》の高座《かうざ》
- 2307 市街《いちまち》のあいさつ人より ラビ ラビと となへらるゝなどをこのむ
- 2308 汝らはラビのとなへを【うけるくくる】ことなかれ いかになれば汝らの主《しゆ》はひとり すなはちキリストなり 汝らはみな兄弟なり
- 2309 また地《ち》にあるものを父となふることなかれ 汝らの父はひとり すなはち天《てん》に【{ある/まします} <います】ものなり
- 2310 また主《しゆ》のとなへを【うけるくくる】ことなかれ いかになれば汝らの主《しゆ》はひとり すなはちキリストなり
- 2311 汝らのうちおほひなるものは汝らの【つかふものくしもべ】となるべし
- 2312 みづからをたかぶるものはひくゝなるべし またみづからをひくゝするものはたかくなるべし
- 2313 嗟呼《あゝ》 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《【にせのせ [ぜ] んにんくぎぜんしや】》よ いかになればそれ天國《てんこく》【のみちをふさき [ぎ] てくを人のまへにとちて】 おのれも【ゆかずくいらず】して いらんとするものをもゆるし【ていれませんかいれざればなり】
- 2314 嗟呼《あゝ》 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《ぎぜんしや》よ いかになれば癡婦《やもめをんな》の家《いへ》を并吞《へいどん》し いつはりてながきいのりを【いたしますくなす】 これによりて汝らもつともおもき刑罪《つみ》を【うけまするわいくくべければなり】
- 2315 あゝ 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《ぎぜんしや》よ いかになればわが宗旨《しうし》に【ひとりもおほくくひとりでも】【なかまにいろくひきいれん】ために【うみをわたりとちをめぐりく海陸《かいりく》をめぐり】 かれすでに【なかまにはいれればくひきいろれば】 汝らよりなほ倍《ばい》してこれを地獄《ぢごく》【におちるものくの子《こ》】と【いたしますくなせり】
- 2316 あゝ 汝らわざはひなるかな 警者《めしひ》なる手《て》ひきよ そのことばに たれにてても殿《みや》をさして誓《ちかふ》ものはちかひとせず 殿《みや》の金《こがね》をさしてち

かふものはそむくべからずといへ【ますくり】

2317 おろかにしてめしひなるものよ たつときものは金《こがね》なるか 金を清浄【{《きれい》に/《きよく》} <《しやうた》に】するの神殿《みや》なるか 【どちらであるか<いづれぞや】

2318 またたれにても祭《まつり》の壇《だん》をさしてちかふものはちかひと【は いたしません<せず】 そのうへのそなへものをさして【ちかひをたてしくちかふ】ものは【まちがひてはならぬ<そむくべからず】といへ【ますくり】

2319 【どん<おろか】にして【めくら<めしひ】なるものよ たつときものはそなへものか そなへものを清浄《【きよらか<しやうた】》にする祭《まつり》の壇《だん》【である<なる】か 【どちらである<いづれ】ぞや

2320 ゆゑにまつりの壇《だん》をさしてちかふものは まつりの壇《だん》およびすべてのそのうへにあるものをさして【ちかひをたてる<ちかふ】【のである<なり】

2321 また神殿《みや》をさしてちかふものは みやおよびそのうちにいますものをさして【ちかひをたてる<ちかふ】【のである<なり】

2322 また天《てん》をさしてちかふものは神のみくらみおよびそのうへに【まします<坐《ざ》する】ものをさして【ちかひをたてる<ちかふ】なり

2323 あゝ 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《ぎぜんしや》よ いかにとなれば薄荷《はくか》 茴香《うききやう》 馬芹《まきん》の十分《じゅうぶん》の一《いち》をとりておさめ おきてのもつともおもんずべきもの義《ぎ》と仁《じん》と信《しん》とは汝らこれを【すてます<すつ】 これも【よよ】【おこなは<おこなふ】【ねばならぬ<べき】ものなり かれもまた【すててはならぬ<すつべからざる】ものなり

2324 【めくら<めしひ】の手《て》ひきよ ぼうふり【むし】を濾《こし》て出《いだ》し 駱駝《らくだ》をのむものなり

2325 汝らさかづき盤《さら》の外《そと》をきよくし うちには【{むさぼり/むりとりし} <しへたげ】たるものと淫欲《【いんじのよく<いんよく】》なるものにて【{いつは [ば] いなり/こほ [ぼ] れしほどなり} <みてり】

2326 【めくら<めしひ】なるパリサイの人よ 杯《さかつき》と盤《さら》のそとを【きれいに<きよく】【する<なさん】ために まづその【なかのもの<うち】を【{きれいに/いさき [ぎ] よく} <きよく】【するがよい<すべし】

2327 あゝ 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《ぎぜんしや》よ いかにとなればしろくぬりたる墳墓《はか》に【にてをります<にたり】 そとはうつくしく見《みえ》うちは骸骨《がいこつ》とさまた\のけがれにて【いつは [ば] いなり<みてり】

2328 かくのごとく汝らもまた外《そと》には人にたゝ [ゞ] しく見《み》え うちには【いつはりのよきこと<偽善《ぎぜん》】と不法《【むはふ<ふはう】》にて【いつは [ば] いなり

〈みり〕

2329 あゝ 汝らわざはひなるかな がくしやとパリサイの人 偽善者《ぎぜんしや》よ いかにと
なれば [ば] よげんしやの塋《はか》をたて 【義《たゝ [ゞ] しき》人<義人《ぎじん》】の
石碑《せきひ》をかざり

2330 またいふに われもし先祖《せんぞ》のときにありしならば 【かみのおつげをうけしひと
<預言者《よげんしや》】の血《ち》をながすに 【いちみは<荷擔《かたん》】せざりしもの
をと

2331 されば汝らはよげんしやをころせしものゝすゑなることを 汝ら【おのれ<みづから】に
そむきて證據《しやうこ》【に】するなり

2332 汝らの先祖《せんぞ》の量度《ますめ》をみたせよ

2333 蛇《へび》 蝮《まむし》のたぐひぞ 汝らいかで地獄《ぢごく》の刑罰《けいばつ》をま
ぬかれんや

2334 このゆゑに みよ 預言《よげん》しやと智者《ちしや》と士子《がくしや》を【おまへが
たへ<汝らに】【あげましたれば<つかはすに】あるひはころし十字架《じうじか》につけあ
るひは【ひとのあつまるいへ<會堂《くわいどう》】に【うちたたき<むちうち】むら/ \に
おいておひくるしめ【ゆくん】

2335 かく【ただしく<義《ぎ》】あるアベルの地《ち》より【も】殿《みや》とまつりの壇
《だん》のあひだにて【ころした<ころせし】バラキアの子《こ》なるザカリヤの血《ち》ま
で土《つち》に【ながした<ながせし】【たゝ [ゞ] しき<義《ぎ》ある】ものゝ血《ち》は
みな汝らにむくひきたるべし

2336 まことに【おまへかた<汝ら】に【つげましう<つげん】このこと【は】みなこの代《よ》
に【おいて】むくひ【が】【きまずぞ<きたるべし】

2337 あゝ エロソルマか エロソルマか よげんしやをころし 汝につかはされしものを石《い
し》にてうつものなるぞ 牝鷄《めんどり》雛《ひな》をつばさのしたに【あつめる<あつむる】
ごとく われ汝の子《こ》どもをあつめんと【おもへしくほつせし】こといくたびぞや されど
汝は【このみません<このまず】

2338 【みるか [が] よい<みよ】 汝らの荒家《あれや》は汝らにのこるなり

2339 われ汝らにつげん 主《しゆ》の名《な》によりて【くる<きたる】ものはさいはひなり
といはるゝときにいたるまで いまよりのちふたゝびわれを【みることはありません<みざるべ
し】

●第二十四章●

2401 耶穌神殿《みや》よりいでゝゆきけるに そのでし神殿《みや》の宇《かまへ》をかれに み
せ【るくん】とてきたれば

2402 耶穌かれらにいひけるは このものをみな見《み》【ませんくざる】か まことに【おまへがたく汝ら】につげ【ますくん】石《いし》のうへの石も垣《くず》[圮]れずにはこゝに【のこりますまいくのこるまじ】

2403 耶穌橄欖山《かんらんざん》に【すはりたまへしく坐《ざ》する】とき 門徒《でし》人を【とほざけくさけ】て【きてくきたり】いひけるは いつそのこと【ありますかくあらんや】また主《しゆ》きたると よのおはりのしるしはいかなること【ありますかくあらんや】われらにつげ【てくだされくたまへ】

2404 耶穌こたへてかれらにいひけるは 人【が】【おまへがたく汝ら】をあざむかぬやうに【きをつけて】つゝし【みなさいくめよ】

2405 【と [ど] ういふわけかかいかに】と【いへばくなれば】おほくの人【が】【わたしのくわが】【なをなのりく名《な》により】て【きますくきたり】われはキリストなりといひておほくの人を【た [だ] ましますぞくあざむくべし】

2406 また汝ら軍《いくさ》といくさの風聞《ふうぶん》をきくべしなれども おそれざるやうにつゝし【むがよいくめよ】これ【は】みな【やめるくやむ】こと【のできませんくをえざる】【ことくもの】【でありますくなればなり】さりながら終《おはり》いまだいたらず

2407 いかにとなれば民《たみ》は民をせめ 國《くに》は國をせめ 飢饉《ききん》 疫病《【やくべうくゑきべう】》 地震《ぢしん》 所《しよ》 / \ にある【べしくべければなり】

2408 これみなわざはひのはじめなり

2409 そのとき人汝らを【なんき [ぎ] させてくなやみにわたし】ころすべし また汝らわが名《な》のために萬民《【よろつ [づ] のひとくばんみん】》に悪《にく》【まれましようくまるべし】

2410 そのときおほくのものつまづかされ【て】 たがひに【おとしあいくわたし】 たがひにうらむべし

2411 【いつはりのせいじんく偽《にせ》預言者《よげんしや》】おほく【できてくおこり】おほくの人を【た [だ] ましましようくあざむくべし】

2412 不法《ふほう》かさなるによりておほくの人愛情《あいじやう》【が】【さめましようくひやゝかなるべし】

2413 されどおはりまで【まことのみちにしたがふくしのぶ】ものはこれ【すくはれますくすくはるべし】

2414 また天國《てんこく》のこの福音《ふくいん》を萬民《【せかいのひとくばんみん】》に證據《しやうこ》【となるくをなさん】ために【せかいのうちのこらずくあまねく天下《てんか》に】いひひろめ【られましようくられん】【そうしてくしかる】のちおはり【の ひになりましようくいたらん】

2415 ゆゑにあらす憎《にくむ》べきもの すなはち預言《よげん》しやダニエルによりていは

- れしところのもの聖處《せいしよ》にたつを見《み》ば「よむものよくかんがへ【なされくよ】」
- 2416 そのときユダヤにをるものは山ににけ [げ] よ
- 2417 屋《やね》のうへにをるものはその家《いへ》のものをとりにおりる【ことをするなくなかれ】
- 2418 田畑《たはた》にをるものはそのころもをとりにかへる【ことをするなくなかれ】
- 2419 わざはひなるはその日はらめるものと乳《ち》をのまするをんななり
- 2420 汝ら冬《ふゆ》また安息日《あんそくにち》に逃《にぐ》ることなきやうにいのれ
- 2421 いかにとなればそのときのおほひなるなやみは世《よ》のはじめより今にいたるまで【そんなことかくのごとき】は【ありませんくなかりき】 またのちにも【ありませんくあるまじければなり】
- 2422 もしその日を見かく【いたしませんならばくせられずんば】 ひとりも【たすかるくすくはるゝ】もの【ありませんくなかるべし】 さりながらゑらまるゝものゝためにその日を見かくせらるべし
- 2423 もしそのとき みよ キリストこゝにあり かしこにありと汝らにいふものありとも【まこととすることく信《しん》ずる】なかれ
- 2424 いかにとなればにせキリスト僞《にせ》預言者《よげんしや》たちおこりて仕遂《しとげ》らるゝならば ゑらまれしものをもあざむくやうにおほひなる兆《しるし》とふしぎなることを【いたしましうくなさん】
- 2425 みよ われ汝らにあらかじめつけ【ておきますくおきぬ】
- 2426 ゆゑに【みるがよいくみよ】 キリスト野《の》にありといふものありとも【でることくいづる】なかれ みよ 蜜屋《へや》にありといふものありとも信《しん》ずるなかれ
- 2427 いかにとなれば電《いなづま》の東《ひがし》よりいで西《にし》にまでひらめくごとく人の子《こ》のきたるもかくのごとく【であるぞいくなればなり】
- 2428 それ屍《しかばね》のあるところに驚《わし》あつまるべし
- 2429 その日のなやみの後《のち》たゞちに日はくらく 月《つき》はひかりをうしなひ 星《ほし》はそらよりおち 天《てん》のいきほひ【おそろしかるくふるはるゝ】べし
- 2430 そのとき人の子《こ》の兆《しるし》天《てん》にあらはれ また地上《【ちのうへくちし [じ] やう】》にある【あらゆるひとびとのく庶族《しよぞく》】なげき 人の子權威《けんい》とおほひなる光明《くわうめう》ありて 天《てん》の雲《くも》にのりきたるをみるべし
- 2431 また喇叭《らつぱ》のおほひなる【おとのするときくこゑをして】そのつかひをつかはしそのゑらまれしものを天の【こつちのくこの】はてより【あちらのくかの】はてまで四方《しほう》よりあつむべし
- 2432 それ汝ら無花果《いちじく》によりてたとへをまなべ その枝《えだ》すでにやはらかにして葉《は》めぐめば 夏《なつ》のちかきをしる

- 2433 かくのごとくまた汝らすべてこのことを見《み》るときに これはちかく門《かど》ぐちにいたるとしれ
- 2434 まことに汝らにつげん このことごとく\くなるまでは この民《【ひとくたみ】》は失《うせ》ざるべし
- 2435 天地《てんち》は【なくなるともくうせん されど】わがことば\【なくなりませんくうせじ】
- 2436 さりながらその日そのときをわが父のほか【に】天の【お】つかひ【ゆくだに】も【これをしりませんくたれもしらず】
- 2437 ノアのごとく 人の子《こ》のきたるもまた【そのごとくしからん】
- 2438 それ洪水《くわうずい》のまへノア方舟《はこぶね》にいる日まで 人\飲食《のみくひ》嫁娶《とつぎめとり》などして
- 2439 洪水きたり こと\くみなほろぼすまで【は】【しるものなしくしらざるがごとく】人の子《こ》のきたる【とき】も【そのとほりとしるくまたかゝる】べし
- 2440 そのときふたり田畑《はた》にあるに ひとりはとられ ひとりはこのこされ
- 2441 ふたりの婦女子《をんな》旋磨《うすひく》に ひとりはとられ ひとりはこのこされん
- 2442 ゆゑに汝らの主《しゆ》いづれのとききたる【もくか】【しれくしら】ざれば おこたらずまもれよ
- 2443 家《いへ》のあるじ盗賊《ぬすびと》【の】【いつくいづれのとき】【くるといふくきたらん】こと【がしれましたればくをしらば】まもりてその家《いへ》をやぶらせ【ませんといふくざらん】ことをよくこゝろえよ
- 2444 このゆゑに汝らもまた覺悟《かくご》【を】【するか[が] よいくせよ】いかにとなればおもはざる時に人の子《こ》【も】【くるであらうくきたらん】
- 2445 ときによりて【なくかなはざるものく糧《かて》】をかれらに【あたへるくあたふる】ために 主人《【だんなくしゆじん】》がその家内《かない》のもの\うへ【にてくにおきたる】忠義《ちうぎ》にしてかしこき【けらいくしもべ】はたれなるや【と】
- 2446 その主人《しゆじん》【が】【きてくきたりて】【よくかく】つとむるを見《み》【るなら】ば その【けらいくしもべ】はさいはひ【でありますくなり】
- 2447 われまことに汝らにつげん その身代《しんだい》みなこれに【まかせましようくつかさどらせん】
- 2448 そのあしき【けらいくしもべ】はおのがこゝろに わが主人《しゆじん》のきたるはおそか【らうくらん】と【おもひましくいひ】て
- 2449 その傍輩《ほうばい》を【うちたたきくむちうち】酒《さけ》にゑひたるものどもと飲食《【のみくひくいんしよく】》をし【初めましたならばく初《そめ》なば】
- 2450 その【けらいくしもべ】の主人《【だんなくしゆじん】》はおもはざるの日しらざるのと

きにきたりて

2451 かれをきりころし 【いつはりのもの<偽善者《ぎぜんしや》】と【その】分《ぶん》を
【おなじやうに<おなじふ】して【しおきしましよ<刑《つみ》せん】そこにてかなしみ齒
《は》がみすることあるべし

●第二十五章●

2501 そのとき天國《てんこく》はともし火をとりて新娶《はなむこ》をむかへにいつる十人の
娘《むすめ》になぞらふべし

2502 そのうち五人かしこく五人おろかなり

2503 おろかなるものはそのともし火【のため<をとる】に油《あぶら》【の よういか [が]
ありません<を たづさへす [ず]】

2504 かしこきものはそのともし火とともに器《【いれもの<うつは】》にあぶらを【もつてお
ります<たづさへり】

2505 新娶《はなむこ》者はおそければみな【うたたね<かりね】に【ねました<いねたり】

2506 【夜なか<夜《よる》なかば】に【みなされ<みよ】はなむこ【きましたから<きたり
ぬ】むかひに【でよ<いでよ】とのこゑ【が】【しますと<ありければ】

2507 このむすめともみなおきてそのともし火をとゝのへ【まする<ぬる】に

2508 おろかなるものかしこきものにいひけるは われらのともし火きえ【ます<んとす】れば
【おまへかた<汝ら】のあぶらをわれらにわけ【て<た [だ] され<あたへよ】

2509 かしこきものこたへていひけるは 【それはこまります<おそらくは】われらと汝らとに
【は】【たりませんから<たるまじ】 【□□<寧《むしろ》】賣《うる》もの【のかた】【へ
<に】ゆきて【じぶん<おのれ】のために買《か》【ふか [が] よい<へ】

2510 かれら買《かひ》にゆきしとき新娶《はなむこ》きたりければ すでにそなへしものはか
れとともに婚禮《こんれい》【の さ [ぎ] しき】に【はいりましたれば<いりしかば】 門《も
ん》はとぢられたり

2511 【それの<かゝる】のちに【あふ [ぶ] らかひにゆき<そのほかの】娘《むすめ》【き
まし<きたり】て主《しゆ》や主《しゆ》やわれらに【もんを】【あけて<ひらき】【くた
[だ] され<たまへ】といへば

2512 こたへて まことに汝らにつげん われ汝らをしらざるなりと【いはれました<いへり】

2513 されば人の子《こ》きたる日と時《とき》をもしらざるがゆゑにつゝし【みなされ<めよ】

2514 人の子《こ》旅《たび》にたつ人のごとし おのがしもべをよびてその全業《しんしよう》
をこれらにあづけ

2515 各《おの / \》その器量《きりやう》によりて 一人《ひとり》には金《きん》五千 一人
《ひとり》には二千 ひとりには一千をあたへて やがてたびだち【ました<ぬ】

- 2516 五千の金を【あづかりくうけ】しものはゆきてこれを【はたらかせてくはたらかし】また別《べつ》に五千をまうけ【ましたくたり】
- 2517 二千を【あづかりくうけ】しものもまた別《べつ》に二千をまうけ【ましたくたり】
- 2518 しかるに一千を【あづかりくうけ】しものはゆきて地《ち》をほり その主《しゆ》の金を【かくしておきましたくかくせり】
- 2519 ほどへてのちそのしもべのあるじかへり【まして】これらと計會《かんじやう》を【いたしますくなしける】に
- 2520 五千の金をうけしもの そのほかに五千金をもちきたりて 主《しゆ》や われに五千の金をあづけしに 【みなされくみよ】 そのほかに五千の金をまうけ【ましたくたり】といひ【ましたればくければ】
- 2521 そのあるじ かれにいひ【まするくける】は 嗚呼《あゝ》【よいことく善《ぜん》】【またく且《かつ》】【ちゆうぎく忠《ちう》】なる【ものくしもべ】ぞ 汝わづかなることにおいて【ちゆうぎをく忠《ちう》に】【しましたくなせり】 われ汝におほき【なる】ものを【しはいさせましようくつかさどらせん】 汝のあるじ【をよろこばせよくのよろこびにいれよ】
- 2522 二千の金をうけしものきたりて 主《しゆ》や われに二千の金をあづけしに みよ そのほかに二千の金をまうけ【ましたくたり】といふ
- 2523 そのあるじかれにいひけるは あゝ 【よいことく善《ぜん》】【またく且《かつ》】【ちゆうぎく忠《ちう》】なる【ものくしもべ】ぞ 汝わづかなることにおいて【ちゆうぎをく忠《ちう》に】【しましたくなせり】 われ汝におほき【なる】ものを【しはいさせましようくつかさどらせん】 汝のあるじ【をよろこばせよくのよろこびにいれよ】
- 2524 また一千の金をうけしものきたりていひけるは 主《しゆ》や 汝はきびしき人にて まかざりしところより獲《かり》とり散《ちら》さざりしところよりあつむる人なるをわれ【しりてをりますくしりぬ】れば
- 2525 われおそれ ゆきて主《しゆ》の一千の金を地に【かくしておきましたくかくせり】 みよ あなたはあなたのものを【うしなひませんくえたり】
- 2526 そのあるじこたへてこれにいひけるは あしくして且《【またくかつ】》おこたるしもべぞや われはまかざりしところよりかり ちらさざりしところよりあつむるとするか
- 2527 しからばわが金をば兌銀者《りやうがへや》にあづけおくべきなり さすればわがかへりしときに元金《もときん》と利息《りそく》とをうけとるべし
- 2528 よつてかれの一千の金をとりて十千の金あるものにあたへよ
- 2529 いかにとなればそれつものにはあたへてなほあまりあらしめ あらざるものにはそのもつものまでも【とられるくとるべし】と【いへばくなれば】なり
- 2530 いたづらなるしもべをそとのくらきにおひやれ そこにてかなしみ齒《は》がみすることあるべし

- 2531 さて人の子《こ》おのれの威光《いくわう》にてもろ/\の聖《【きよらかくせい】》なるつかひをつれきたるときには その威光あるくらみに坐《ざ》し
- 2532 國《くに》/\の民《たみ》をそのまへにあつめ 羊《ひつじ》を牧《かふ》もの綿羊《めんよう》と山羊《やぎ》とをわかつごとくにかれらを品《しな》わけ【を】し【て】
- 2533 綿羊をその右 山羊をひだりにおかん
- 2534 つひに王《わう》右にをるものに【いひますくいはん】 わが父にめぐまるゝものよ きたりて世《よ》のはじめよりこのかた 汝らのためにそなへられし國《くに》を継《つげ》よ
- 2535 いかにとなれば飢《うえ》しときにわれに食《くは》せ 渴《かわ》きしときにわれにのませ 旅《たび》せしときにわれを【とまらくやどら】せ
- 2536 裸《はだか》なりしときにわれに衣《き》せ 病《やみ》しときにわれを訪尋《みまひ》獄《【ろうやくひとや】》にありしときにわれに【きたればくきぬれば】なり
- 2537 こゝにおいて義《たゞしき》ものかれにこたへていはん 主《しゆ》や いつ主《しゆ》の飢《うえ》しをみて食《くは》せ また渴《かわ》きしにのませしや
- 2538 いつ主《しゆ》の旅《たび》せしをみてやどらせ また裸《はだか》なりしに衣《き》せしや
- 2539 いつ主の病《やみ》また獄《ひとや》にありしをみて主《しゆ》にきたりしや
- 2540 王《わう》こたへてかれらにいはん まことに汝らにつげ【ますくん】 汝らすでにわがこの兄弟のいたつてちいさきものゝひとりに【いたしましたくおこなへる】【こと】は すなはちわれに【いたしましたくおこなひし】【もおなじこと】なり
- 2541 つひにまたひだりにをるものに【いひますくいはん】 罰《つみ》せらるべきものよ われをはなれて 悪魔《あくま》とそのつかひのためにそなへしきえざる火に【は】いれよ
- 2542 いかにとなれば飢《うえ》しときにわれに食《くは》せず かわきしときにわれにのませず
- 2543 たびせしときにわれを館《やど》らせず 裸《はだか》なりしときにわれに衣《き》せず 病《やみ》また獄《ひとや》にありしときにわれを訪尋《みまは》ざればなり
- 2544 こゝにおいてかれらまたこたへて【いへましようくいはん】 主《しゆ》や いつ主《しゆ》の飢《うゑ》 また渴《かわ》き また旅《たび》し また裸《はだか》 また病《やみ》 また獄《【ろうやくひとや】》にありしを見《み》て主《しゆ》につかへざりしや
- 2545 そのときに王《わう》こたへてかれらにいはん まことに汝らにつげん この【はなはた[だ]くいと】ちいさきものゝひとりに【も】【いたしませんならくおこなはざりしは】【やはりくすなはち】われにも【いたさぬくおこなはざりし】【とおなじこと】なり
- 2546 これらはかぎりなき刑罰《けいばつ》にいり たゞしきものはかぎりなきいのちにいるべし

●第二十六章●

- 2601 さてまた耶穌このさまゞの【をしへくことば】を【はなしくいひ】【てしまつてくおはりて】【から】その門徒《でし》に【また】【はなしまするにくいひけるは】
- 2602 二日《ふつか》【すき [ぎ] るとくのゝちには】逾越《すぎこし》のまつり【て [で] ありますくならん】と【おまへがたく汝ら】【しつてゐるくしれる】なり また人《ひと》の子《こ》十字架《じうじか》につけられ【るくん】ために【とらはれてひかれますくわたさるゝなりと】
- 2603 そのとき【おほきなるやくにん<祭司《さいし》のをさたち】と士子《がくしや》と民《【ひとくたみ】》の長老《としより》【のやくにん】【ゆゑに】カヤパといへる祭司《さいし》のをさのやしきの庭《には》にあつまり
- 2604 詭計《【はかりごとくたばかり】》をもつて耶穌をとらへころさんとともゞにはかり【ごとをしました】
- 2605 【その】【はなしまするにくいひけるは】民《【ひとくたみ】》のうちに亂《【さはぎくらん】》のおこらんことを【おそれるくおそるゝ】ゆゑに まつりの日には【よすがよいとくすべからず】
- 2606 それ耶穌ベタニヤの癩病《らいべう》のシモンの家《いへ》にをるときに
- 2607 ある婦《をんな》蠟石《ろうせき》の器《うつは》にあたへたかき没薬《もつやく》を耶穌にもち【てきましたくきたり】耶穌【ぜんにむかふてゐるく食《しよく》する】ときにその【あふ [ぶ] らを】【つむく首《かうべ》】に【つけましたくかけしかば】
- 2608 その門徒《でし》見《み》【はらたちがほをしてくていかりをふくみ】【これを費やすくこの費《つひえ》の】ことはなにゆゑぞや
- 2609 それこの没薬《もつやく》を賣《うら》ば おほくの【金《かね》になりますからく金《きん》をえて】【びんぼうにん<まづしきもの】に ほどこ【せばよいくさるべき】ものをと【まうしましたればくいひけるを】
- 2610 耶穌しりてかれらにいひ【まするくける】は よきことをわれに【いたしましたくなせし】に なにゆゑにこのをんなを【こまらせくなや】まするや
- 2611 【びんばふなるくまづしき】ものはつねに【おまへがたく汝ら】と【いつしよくとも】なるに われはつねにともならず
- 2612 かれこの没《もつ》やくをわが體《み》にかけしは 我《われ》【をほうむるくのはうむりの】ためになせり
- 2613 まことに汝らにつげん 天《あめ》が下《した》いづくにてもこの福音《ふくいん》の【ひろまるくひろめらるゝ】ところに このをんなの【いたしましたくなせし】こともその形見《かたみ》【となりてくのために】【いへつたひられましようくいひつたへらるべし】
- 2614 そのとき十二でしのひとりイスカリオテのユダといへるもの【おほきやくにんのかたへく祭司《さいし》のをさたちに】ゆきて

- 2615 われかれを汝らにわたさば なにを【くれますくあたふる】やといひければ 銀《ぎん》三十とかれに約《やく》【そくしましたくせり】
- 2616 このときより耶穌をわたさんと をりをうかゞへ【ましたくり】
- 2617 除酵《たねいれぬ》ぱんのまつりのはじめの日に でし耶穌にきたりていひけるは あなた 逾越《すぎこし》のまつりに食事《しよくじ》せんとして われらあなたのためにそなふるはいづくにせんとほつするや 耶穌いひけるは
- 2618 城下《じやうか》にいり何《なに》がし【のかたに】に【ゆきくいたり】て師《し》【しやう】が【まうしますくいへるは】わが時《とき》【ちかづきましたくちかづけば】われ門徒《でし》とともにすぎこしの食事《しよくじ》を汝の家《いへ》に【いたしたいくなすべし】といへ【よ】
- 2619 でし耶穌の【おほせのとほりく命《めい》ぜしごとくして】すき【ぎ】こしの食事《しよくじ》をそなへ【ましたくたり】
- 2620 日く【ぐ】れに耶穌十二でしとともに席《せき》に坐【《すは》りましたく《ぎ》したり】
- 2621 食《しよく》するときいひけるは まことに汝らにつげん 汝らのうちの一人《ひとり》はわれを【やくにんに】【わたすだらうくわたさん】
- 2622 かれらいとうれひ おの / \ 耶穌に【まうしまするにくいひいできるは】主《しゆ》や われなるか
- 2623 こたへていひけるは われとともに盃《はち》に手《て》を【いれるくつくる】もの これわれを【わたしますくわたさん】
- 2624 人の子《こ》はおのれについて【むかしのしじん かき】しるされしごとく【ゆきましやうくゆかん】しかれども人の子《こ》をわたすその人こそわざはひなれ その人うまれ【ざればくざりしかば】かれの幸《さいはひ》なるものを
- 2625 かれをわたすのユダこたへていひけるは ラビや われなるか かれにいひけるは 汝の【いふたくいへる】【とほりくごとし】
- 2626 かれら食《しよく》するとき 耶穌ぱんをとり祝《しゆく》しいのりて門徒《でし》にあたへていひけるは 取《とり》て【たべるがよいくらへ】これはわが身【《からだ》】なり
- 2627 また杯《さかづき》をとり謝《しや》してかれらにあたへていひけるは 汝らみなこのさかづき【にてくより】のめよ
- 2628 そはこれ新約《しんやく》のわが血《ち》にして 罪をゆるさんとておほくの人のために【ながしますくながさるゝ】ものなればなり
- 2629 われ汝らにつげん 今よりのち汝らとともにこれをあらたにわが父の國《くに》に【のむくのまん】日まで ふたゝびこの葡萄《ぶどう》にてつくれるものを【のみますまいくのむまじ】
- 2630 かれらうたをうたひてのち橄欖山《かんらんざん》に【ゆきましたくゆけり】
- 2631 そのとき耶穌かれらに【いひまするにくいひけるは】今夜《こんや》汝らみなわれにつ

- いて【まごつかくつまづか】され【ましうくん】そ【れ】はわれ牧《かふ》ものを【うたばく
うたんに】【ひと】群《むれ》の綿羊《【ひつじくめんよう】》ちらされ【ましうくん】と【む
かしのせいじん】【かきのこされましたくしるされし】【ゆくなればなり】
- 2632 されどわれよみがへりしのち【おまへかたよりく汝らに】先《さき》【へくだちて】ガ
リラヤに【ゆきますくゆくべし】
- 2633 ペテロこたへて耶穌にいひけるは みなあなたについてつまづかさるゝとも われかなら
ずつまづかされ【ませんくまじ】
- 2634 耶穌かれにいひけるは まことに汝らにつげん 今夜鶏《にはとり》なかざるまへに汝三
《み》たびわれをしらずと【いふべしくいはん】
- 2635 ペテロかれにいひけるは われは主《しゆ》とともに死《し》すともあなたをしらずとい
はじ 門徒《でし》もみなかくいへ【ましたくり】
- 2636 その耶穌かれらとともにゲツセマネといへるところに【まゐりましてくいたりて】われ
かしこにゆきいのるまでこゝに【あろよくをれ】とでしたちにいへ【ましたくり】
- 2637 ペテロとゼベダイのふたりの子《こ》をつれてうれひかなしみをもよふし
- 2638 そのときかれらにいひけるは わがこゝろ【いたみうれひるくいたくうれふる】こと死《し》
ぬるばかりなり こゝにまちてわれとともに目《め》をさまし【てゐなされくをれ】
- 2639 すこしすゝみ俯伏《うつぶし》ていのり【て】いひけるは わが父よ 若《もし》なるべく
はこの杯《さかづき》を【はなれさせくはならせ】たまへ されどわがこゝろのまゝになすにあ
らず みこゝろのまゝに【まかせますくまかするなり】
- 2640 しかして門徒《でし》にきたりその【ねむりくいね】たるを見《み》ペテロにいひける
は かくもわれとともに一ときも目《め》をさますことの【て[で]きませんくあたはざる】か
- 2641 まどひにいらぬやうにめをさましかついのれ 魂《たましひ》はほつすれども肉體《にく
たい》は疲《よは》きなり
- 2642 ふたゝびゆき またいのりていひけるは わが父よ もしこのさかづきをのまずしてわれを
はなるゝことあたはずんば みこゝろにまかすべし
- 2643 またきたりて かれらのいねたるをみる そはその目《め》のつかれしゆゑなり
- 2644 かれらをはなれてまたゆき 三たびめ【に】もおなじことをいひていのり
- 2645 ついにそのでしにきたりていひけるは 今はいねてやすめよ みよ 時【《とき》】ちかし 人
の子《こ》つみ人の手《て》にわたさるゝなり
- 2646 おきよ われらゆくべし みよ われをわたすものちかづけりと
- 2647 いふうちに みよ 十二の一人ユダ刃《やいば》と梃《つえ》とをもちたるおほくの人ノ
とともに祭司《さいし》のをさと民《たみ》の長老《としより》【のかた】より【きましたく
きたれり】
- 2648 耶穌をわたすもの かれらにあいづをしめして【われといへ[?]】こたへするくわが接吻

- 《キツス》せん】ものこそそれなれ これをとらへよと【いへて〔?〕くいへり】
- 2649 たゞちに耶穌にきたりて ラビ やすきやといひて かれに【はなししましたく接吻《キツス》せり】
- 2650 耶穌かれにいひけるは 友《とも》【だち】よ なんのためにきたるや こゝにおいてかれらすゝみ 手《て》を耶穌にかけてとらへたり
- 2651 みよ 耶穌とともにをるものゝひとり 手をのぼし劍《けん》をぬき祭司《さいし》のをさのしもべをうち その耳《みゝ》を削《そぎ》おとせり
- 2652 こゝにおいて耶穌かれにいひけるは 汝の劍《けん》をもとにおさめよ いかにとなればすべて劍《けん》をとるものは劍《けん》にて【しにますくほろぶべし】
- 2653 われ今十二萬《まん》余《よ》の使者《つかひ》をわれに賜《たま》はんことをわが父にねがふことあたはずとおもふか
- 2654 しからばいかで聖書《せいしよ》に應《おう》ずべきや いかにとなればかくあらねばならぬなり
- 2655 そのとき耶穌人ノゝにいひけるは 刃《やいば》と梃《つえ》とをもちてぬすびとをとらゆるごとくにわれをとらへにきたるや われ日ノゝに汝らとともに殿《みや》に坐《ぎ》してをしゆといへども 汝らわれをとらへざりし
- 2656 さりながらこれみな預言者《よげんしや》のしるされしにかなふやうになれり こゝにおいて門徒《でし》みな耶穌をはなれてにげ【ましたくたり】
- 2657 耶穌をとらへしもの士子《がくしや》と長老《としより》のあつまりしところの祭司《さいし》のをさカヤパへこれをひき【つれて】【ゆきましたくゆけり】
- 2658 ペテロとほくはなれて祭司《さいし》のをさの庭《には》まで耶穌にしたがひて【は】いり そのなりゆきを見《み》んとて僕《しもべ》とともに【すはつてをりましたく坐《ぎ》したり】
- 2659 祭司《さいし》のをさたち長老《としより》と【まつたくのく全《ぜん》】公會《こうくわい》と 耶穌をころさんといつはりの證據《しやうこ》をもとむれども【かなはずくえず】
- 2660 おほくのいつはりの證據人《しやうこにん》きたれども また【かなはずくえず】のちにいつはりの證據人《しやうこにん》ふたりきたりていひけるは
- 2661 この人 われよく神の殿《みや》をこぼちて 三日《みつか》のうちにこれを建《たて》んといひしことあり
- 2662 祭司《さいし》のをさたちて耶穌にいひけるは こたふることなきや この人ノゝ汝の證據《しやうこ》をたつるはなんぞや
- 2663 耶穌黙然《もくねん》たり 祭司《さいし》のをさこたへてかれにいひけるは 汝キリスト神の子《こ》なるや否《いなや》と 活神《いけるかみ》になんちをちかはせてわれらにつげしめん

- 2664 耶穌かれにいひけるは 汝いへるごとし されども汝らにつげん このゝち汝らは人の子
《こ》【かみさまく權勢《けんせい》】の右に坐《ざ》して天の雲《くも》にのりてきたるを
見《みる》べし
- 2665 こゝにおいて祭司《さいし》のをさ その衣《ころも》を裂《さき》ていひけるは この人
けがすことをいへ【ますくり】 なんぞほかの證據《しやうこ》をもとめんや みよ 汝らも今そ
のけがせることを【ききましたくきけり】【とほり】
- 2666 いかにおもふぞや 人ノゝこたへて かれは死《し》にあたれりといへ【ましたくり】
- 2667 こゝにおいてかれらその面《かほ》につばきし また拳《こぶし》にてうち ある人もかれ
を【うちたたきくたゞ [ゝ] き】いひけるは
- 2668 キリストよ 汝をうつものはたれぞとわれらに預言《よげん》せよ
- 2669 ペテロ内庭《には》に坐《ざ》せしに ひとりの下女《げじよ》かれにきたりていひける
は 汝もガリラヤの耶穌と【ともた [だ] ちくとも】【なるべしくなりし】
- 2670 ペテロすべての人のまへにこばみていひけるは 汝なにをいふか しらずと
- 2671 いでゝ門《かど》ぐちにいたるに またひとりの下女《げじよ》かれを見《み》そこにを
るものにいふには この人もナザレの耶穌と とも【だち】【なりとくなりし】
- 2672 ペテロ われこの人をしらずとまたちかひてこばめり
- 2673 しばらくしてかたへにたちしものすゝみよりペテロにいひけるは まことに汝もそのとも
がらのひとりなり いかにとなれば汝の【くにのなまりことばく方言《くになまり》】【が】汝
を【あらはしますくあらはせばなり】
- 2674 こゝにおいてペテロのゝしり且《かつ》ちかつて われその人をしらずといへるに 鶏《に
はとり》やがて鳴《なき》しかば
- 2675 ペテロ耶穌のことばに 鶏《にはとり》なかざるまへに汝三《み》たびわれをしらずとい
はんといはれしをおもひ 外《そと》にいでゝかなしみなきぬ

●第二十七章●

- 2701 平且《よあけ》[旦]になりて すべて祭司《さいし》のをさたちと民《たみ》の長老《と
しより》は耶穌につきて これをころさんとてともに【はかりてくはかれり】
- 2702 すでにかれを縛《しば》り曳《ひき》て方伯《【おもきやくにんくほうはく】》のポンテ
ヲ ピラトに【わたしましたくわたせり】
- 2703 こゝにおいて耶穌をわたせしユダは死《し》にさだめられしを見《み》て悔《くや》み そ
の銀《ぎん》三十を祭司《さいし》のをさたちと長老《としより》にかへして
- 2704 いひけるは 無辜《つみなき》の血《ち》をわたして われつみを【なしましたくなせり】
かれらいひけるは われノゝにおいてなんぞや みづからかへりみよ
- 2705 ユダ銀《ぎん》を殿《みや》になげすてゝさり往《ゆき》てみづから縊《くびれ》り

- 2706 祭司《さいし》のをさたちこの銀をとりていひけるは これは血《ち》のあたへなれば賽錢箱《さいせんばこ》に【いれるくいる】べからずとて
- 2707 ともにはかり この銀《ぎん》をもつて賓旅客《たびびと》をほうむるために陶工《やきものし》のはたけをかひ【ましたくたり】
- 2708 ゆゑにそのはたけをいまにいたるまで血《ち》のはたけとなづけられ【ましたくたり】
- 2709 こゝにおいて預言者《よげんしや》イエレミヤによりていはれしことばに かれらは【ねだんをつもられし<直積《ねづも》られし】もの すなはちイスラエルの子《こ》より【ねをつもられし<ねづもられし】ものゝあたへの銀《ぎん》三十枚《まい》をとりて
- 2710 主《しゆ》のわれに【おほせられし<命《めい》ぜし】ごとく陶工《やきものし》のはたけをかふためにこれをあたへしといへるにかなへ【ますくり】
- 2711 さて耶穌方伯《ほうはく》のまへにたつ 方伯《ほうはく》耶穌にとふていひけるは 汝はユダヤ人《びと》の王《わう》なるか 耶穌これにいひけるは 汝がいへるごとし
- 2712 祭司《さいし》のをさたち長老《としより》とかれをせめ訟《うつた》ふるに なにもこたへず
- 2713 こゝにおいてピラトかれに この人が、汝にいかやうなる證據《しやうこ》をたつるときこえざるかといひしに
- 2714 方伯《ほうはく》いと【あやしむくあやしめる】までに耶穌一言《【ひとこと<しとこと】》もかれにこたへ【をしません<ざりし】
- 2715 さてこのまつりの日には方伯《ほうはく》のねがひにまかせてひとりの罪人をゆるすの例《【れいくためし】》あり
- 2716 そのときバラバといへるひとりのきこえし罪人《つみびと》ありければ
- 2717 民《たみ》あつまりしときピラトかれらにいひけるは バラバかあるひはキリストといへる耶穌なるか 汝らたれを【ゆるしたく<ゆるさんと】 【おもひますか<ほつするや】
- 2718 これ娼嫉《ねたみ》によりて耶穌を【ひきわたしました<わたせし】【ゆへ<としれば[ば]】なり
- 2719 方伯《ほうはく》吟味所《ぎんみしよ》に坐【《すは》り<《ざ》せ】しとき その妻《つま》いひつかはしけるは その義《たゞ》しきものになにもかゝはることなかれ いかにとなれば今日《けふ》いめにこの人によりおほくうれひたればなり
- 2720 祭司《さいし》のをさたち長老《としより》とバラバをゆるし 耶穌を殺《ころす》をねがへと民《たみ》にすゝめたり
- 2721 方伯《ほうはく》こたへてかれらにいひけるは ふたりのうちわれ【どちら<いづれ】を汝らにゆるすを【おもひます<ほつする】や かれらバラバなりといひければ
- 2722 ピラトいひけるは さらばキリストといへる耶穌にわれなにを【いたす<なす】べきや みな十字架《じうじか》につけよといへり

- 2723 方伯《ほうはく》いひけるは かれなにのあしきことをなせしや きれいよ / \ 十字架につ
けよと【よばりましたくさけびいひければ】
- 2724 ピラトそのかひなくして かへつてさはぎにならんとするを見《み》 水《みづ》をとりて
ひとノ\のまへに手《て》をあらひいひけるは この義人《たゞしきもの》の血《ち》にはわれ
は罪《つみ》なし 汝らみづからこれをかへりみよ
- 2725 民みなこたへていひけるは その血《ち》はわれらとわれらの【しそんくすゑ】にかゝる
べし
- 2726 こゝにおいてバラバをかれらにゆるし 耶穌をむちうちて十字架につけられんために【わ
たしましたくわたせり】
- 2727 こゝにおいて方伯の兵卒《つはもの》 耶穌を公廳《【おやくしよくこうてう】》にひきつ
れて組中《くみぢう》を【そこくかれ】によびよせ
- 2728 その衣《ころも》をはぎてむらさきのうは着《ぎ》をきせ
- 2729 棘《いばら》のかむりものをあみてその首《【あたまくかうべ】》にかむらしめ また鞞
《よし》を右の手《て》にもたせ 且《かつ》そのまへにひざまづき嘲弄《てうろう》していひ
けるは ユダヤ人《びと》の王《わう》やすかれよ
- 2730 またかれに唾《つばき》し そのよしをとりてその首《【あたまくかうべ】》を【{うち
／たたき}くうてり】
- 2731 かれを嘲弄《てうろう》しおはりて その外衣《うはぎ》をはぎ もとのころもをきせ十字
架《じうじか》につけんとてかれをひき【ゆくくゆけり】
- 2732 いづるときクレネの人シモンといへるものにあひ かれに強《しひ》てその十字架を【し
よはく負《おは》】せり
- 2733 かれらゴルゴタといへるところ これを譯《とけ》ば髑髏《されかうべ》のところにきた
れは【ば】
- 2734 醋《す》に膽《い》をあはせて耶穌にのませんとせしに なめてのむをこのまざりし
- 2735 さて耶穌を十字架につけしのちに預言者《よげんしや》のことばに かれらたがひにわが
ころもをわかち わが外衣《うはぎ》を鬮《くじ》にすといはれしにかなふて鬮びきしてその衣
《ころも》を【わけましたくわかちぬ】
- 2736 つはものこゝに坐《ざ》して耶穌を【ばんをしてをりますくまもれり】
- 2737 またこれはユダヤ人の王《わう》 耶穌なりと 罪状標《ざいしやうがき》をその首《【あ
たまくかうべ】》のうへに【たてておきましたくたてり】
- 2738 そのときふたりのぬすびと ひとりハ耶穌の右 ひとりハ左にともに十字架《じうじか》に
つけられ【ましたくたり】
- 2739 往來《わうらい》するもの耶穌を【あくこうするにくけがし】 首《くび》をふりていひ
けるは

- 2740 殿《みや》を【くづしくこぼち】て三日《みつか》にこれをたつものや みづからをたすけよ 汝神の子《こ》ならば十字架よりをりよ
- 2741 祭司《さいし》のをさたち士子《がくしや》長老《としより》ともまたおなし [じ] く嘲弄《てうろう》していひけるは
- 2742 人をたすけしがわが身《み》をたすることあたはず もしイスラエルの王《わう》たるものならばいま十字架よりくだるべし さらばわれらかれを信《しん》【かうしますくぜん】
- 2743 かれは神にまかせり われは神の子《こ》なりといひしうへは 神かれをいつくしまばいまたすけたまふべし
- 2744 とともに十字架につけられし盗賊《とうぞく》もおなじく耶穌をのゝしれり
- 2745 ひる十二字《じ》より三字《じ》までその土地《とち》みなくらくなり【てくぬ】
- 2746 三字《じ》ころ耶穌大聲《おほごゑ》によばりて エリ エリ ラマ サバクタニといへ【ましたくり】これを譯《とけ》ば わが神 わが神 なんぞわれをすてたまふやと【まうしましたくなり】
- 2747 かたはらにたちしものきゝて かれはエリヤをよぶなりと【いひくいへり】
- 2748 やがてそのうちのひとりはしりゆきて 海賊《うみわた》 [絨] をとり醋《す》をふくませ よしにつけて耶穌にのませたり
- 2749 そのほかのものいひけるは まてよ エリヤきたりてかれをたすくるやいなやを見《み》ん
- 2750 耶穌また大聲《おほごゑ》によばりて【いきか [が] たえましたくその魂《たま》をはなちぬ】 みよ
- 2751 殿《みや》の戸牒《とてう》上《うへ》より下《した》までさけてふたつになり また地《ち》【しんがしてくふるひ】磐《いは》【も】さけ
- 2752 墓《はか》ひらけ すでにいねたる信者《しんじや》身《み》おほくよみがへり 耶穌のよみがへりしのち
- 2753 墓《はか》をいで聖城《みやこ》にいりておほくの人にあらはれたり
- 2754 百夫《ひやくにん》の長《かしら》とともに耶穌をまもるもの地震《ぢしん》およびありしことを見ていとおそれて これはまことに神の子《こ》なりといへ【ましたくり】
- 2755 ガリラヤより耶穌にしたがつてつかへしおほくの婦《をんな》はるかにのぞみ【み】てあたり
- 2756 そのうちにマグダラのマリアとヤコブ ヨセの母《はゝ》マリア ゼベダイの子《こ》の母《はゝ》とありし
- 2757 日くれてアリマタヤの富《とめる》人 すなはちでしなる【ものにて】ヨセフと名つくるもの【きたりてくきたれり】
- 2758 かれはピラト【のかた】にゆき【ました】耶穌の屍《しかばね》を【はうむることを】【ねか [が] ひましたくこひしに】ピラトしかばねをわたせと命《めい》ぜり

- 2759 ヨセフ屍《しかばね》をとりて きよき泉《ぬの》につゝみ
 2760 これを磐《いは》にほりしおのれのあたらしき墓《はか》におき 墓《はか》の門《もん》
 におほひなる石《いし》をまろばしてさりぬ
 2761 マグダラの MARIA とほかの MARIA と墓《はか》のむかふに坐《ざ》してそこに居《ゐ》た
 り
 2762 祭《まつり》のそなへ日の翌日《よくじつ》祭司《さいし》のをさたちとパリサイの人ピ
 ラトにつどいひきていひけるは
 2763 主《しゆ》や かの偽者《いつはりもの》の存《いける》とき 三日《みつか》の後《のち》
 よみがへらんといひしをおもふに おそらくはそのでし夜《よる》きたり これをぬすみて民《た
 み》に死《し》せしよりよみがへりといはん
 2764 ゆゑに命《めい》じて三日まで墓《はか》をかためさせよ さなくはのちのまどはしは先
 《さき》より【いよいよくいや】【おほかるくます】べし
 2765 ピラトかれらにいひけるは 汝らにまもるものあり ゆきておもふまゝにかためさせよ す
 なはちかれらゆきて石《いし》に封印《ふういん》し まもるものをして墓《はか》をかためさ
 せし

●第二十八章●

- 2801 安息日《あんそくにち》すぎ ひとまはりのはじめの日 夜《よ》あけどきにマグダラのマ
 リアとほかの MARIA とその墓《はか》を見んとてきたりしに
 2802 みよ おほひなる地震《ちしん》【がしましたればくありし】これ【かみく主《しゆ》】
 の【お】つかひ天《あま》くだり【ましてくきて】石《いし》を門《もん》より【ころがしく
 まろばし】てそのうへに坐【《すは》つておいて [で] なさるく《ざ》すればなり】
 2803 その容貌《【かほかたちくようぼう】》電《いなづま》のごとく そのころも雪《ゆき》
 のごとくしろし
 2804 まもるものかれをおそるゝによりてわなゝき 死《し》せしものゝごとくなりぬ
 2805 つかひこたへて女にいひけるは 汝らはおそるゝなかれ 十字架につけられし耶穌をたづ
 ぬるをわれ【しつてゐるくすれば】なり
 2806 かれはこゝに【をりませんくいませず】いかにとなればそのいひしごとくによみがへ【り
 ましたくれり】きたりて主《しゆ》のおかれしところを見《み》【よ】
 2807 またとくゆきてそのでしに 死《し》よりよみがへり みよ 汝に先《さき》だちてガリラ
 ヤにゆき かしこにて汝らのかれを見《み》【るくん】とつげよ
 2808 みよ 汝らにつげしぞ をんなおそれながらもいとよろこび とく墓《はか》を【はなれて
 くさり】そのでしにつげんとてはしり【ゆきましたくゆけり】
 2809 門徒《でし》につげんとゆきしときに みよ 耶穌かれらに【あひましてくあふて】やす

- かれよといひけるに をんなすゝみそのあしをいだし【て】 【おか [が] みましたく拜《はい》
せり】
- 2810 こゝにおいて耶穌かれらにいひけるは おそるゝ【こと】なかれ 【ここからくさりて】ガ
リラヤにゆけ【よ】 かしこにてわれをみんとわが兄弟に【しらせくつげ】よ
- 2811 をんなゆくとき みよ まもるものうち城下《みやこ》にいたり すべてありしことを祭
司《さいし》のをさたちにつげしかば
- 2812 かれらと長老《としより》あつまりてともにはかり おほくの銀《【かねくぎん】》を士
卒《【あしがるくしそつ】》に【つかはしくあたへ】て
- 2813 いひけるは われら【ねむりたるくいねし】とき そのでし夜《よる》きたりてかれを【ぬ
すみたりくぬすめり】といへよ
- 2814 このこと方伯《ほうはく》にきこえなば われらかれにすゝめて汝らにはこゝろづかひ【の
ないやうにいたしますくなからしめん】
- 2815 かれら銀《ぎん》をとりて いひふくめられしごとく【いへましたくせり】 この話《はな
し》はユダヤ人のうちに今日《こんにち》にいたるまでいひひろめられ【ましたくたり】
- 2816 十一のでしガラヤにゆき 耶穌のかれらに命《めい》ぜられし山にいたり
- 2817 耶穌を見《み》て拜《はい》したり されどもうたがひしものもあり【ましたればくき】
- 2818 耶穌すゝみてかれらにかたりていひけるは 天《てん》のうち地《ち》のうへのすべての
権《けん》をわれにたまは【りましたくれり】
- 2819 ゆゑにゆきて 父《ちち》と子《こ》と聖靈《せいれい》の名にかれらに洗禮《せんれい》
をほどこし
- 2820 わがすべて汝らに命《めい》ぜしことをまもれとをしへて 萬國《ばんこく》の民《たみ》
を門徒《でし》とせよ みよ われ世《よ》の末期《おほり》までつねになんじらとともにある
なり 亞孟《あゝめん》